

2016年度授業日一覧

□の祝日は授業開講日

【前期】	月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)	
2016年	第1回	4月11日	4月12日	4月13日	4月14日	4月15日	4月9日
	第2回	4月18日	4月19日	4月20日	4月21日	4月22日	4月16日
	第3回	4月25日	4月26日	4月27日	4月28日	4月29日	4月23日
	第4回	5月2日	5月10日	5月11日	5月12日	5月6日	4月30日
	第5回	5月9日	5月17日	5月18日	5月19日	5月13日	5月7日
	第6回	5月16日	5月24日	5月25日	5月26日	5月20日	5月14日
	第7回	5月23日	5月31日	6月1日	6月2日	5月27日	5月21日
	第8回	5月30日	6月7日	6月8日	6月9日	6月3日	5月28日
	第9回	6月6日	6月14日	6月15日	6月16日	6月10日	6月4日
	第10回	6月13日	6月21日	6月22日	6月23日	6月17日	6月18日
	第11回	6月20日	6月28日	6月29日	6月30日	6月24日	6月25日
	第12回	7月4日	7月5日	7月6日	7月7日	7月1日	7月2日
	第13回	7月11日	7月12日	7月13日	7月14日	7月8日	7月9日
	第14回	7月18日	7月19日	7月20日	7月21日	7月15日	7月16日
	第15回	7月25日	7月26日	7月27日	7月28日	7月22日	7月23日

【後期】	月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)	
2016年	第1回	9月26日	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	9月24日
	第2回	10月3日	10月4日	10月5日	10月6日	10月7日	10月1日
	第3回	10月10日	10月11日	10月12日	10月13日	10月14日	10月8日
	第4回	10月17日	10月18日	10月19日	10月20日	10月21日	10月15日
	第5回	10月24日	10月25日	午前 11月2日 午後 10月26日	10月27日	10月28日	10月22日
	第6回	10月31日	11月1日	午前 11月9日 午後 11月2日	11月10日	11月11日	10月29日
	第7回	11月14日	11月8日	午前 11月16日 午後 11月9日	11月17日	11月18日	11月12日
	第8回	11月21日	11月15日	午前 11月23日 午後 11月16日	11月24日	11月25日	11月19日
	第9回	11月28日	11月22日	午前 11月30日 午後 11月23日	12月1日	12月2日	11月26日
	第10回	12月5日	12月6日	午前 12月7日 午後 11月30日	12月8日	12月9日	12月3日
	第11回	12月12日	12月13日	午前 12月14日 午後 12月7日	12月15日	12月16日	12月10日
	第12回	12月19日	12月20日	12月21日	12月22日	12月23日	12月17日
2017年	第13回	1月16日	1月10日	1月11日	1月12日	1月6日	12月24日
	第14回	1月23日	1月17日	1月18日	1月19日	1月20日	1月7日
	第15回	1月30日	1月24日	1月25日	1月26日	1月27日	1月28日

目次

建学の精神・教育理念

建学の精神・教育理念・ 人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、 カリキュラム・ポリシー	3
--	---

大学院共通事項

履修	10
----	----

人文科学研究科	25
博士前期課程	28
博士後期課程	32

国際交流研究科	39
博士前期課程	42
博士後期課程	51

音楽研究科	57
修士課程	60

大学院開講科目表

人文科学研究科

英文学専攻博士前期課程	70
日本文学専攻博士前期課程	72
コミュニケーション学専攻 博士前期課程	74
英文学専攻博士後期課程	75
日本文学専攻博士後期課程	76
コミュニケーション学専攻 博士後期課程	77

国際交流研究科

国際交流専攻博士前期課程	78
国際交流専攻博士後期課程	81

音楽研究科

音楽芸術専攻修士課程	82
演奏専攻修士課程	83

学籍

学籍	86
----	----

資料編

組織	90
フェリス女学院大学の沿革	91
専任教員一覧	93
役職者	95
教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者・語学責任者	96
2016年度の主な制度変更（大学院関連）	97

建学の精神・教育理念

建学の精神

フェリス女学院は、キリスト教の信仰に基づく女子教育を行うことを建学の精神としています。

フェリス女学院大学の学則第1条にも、「キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする」と明記されています。

教育理念

さらに、フェリス女学院は「For Others」という教育理念を掲げています。これは、建学以来の永い歴史のなかで自然に人々の心の中で形をなし、学院のモットーとして受け継がれるようになったものです。

この言葉は「他者のために」と訳すことができます。自分やちかしい人だけではなく、より広い視野から他者の存在をも考えに入れて、他者のために行動することを、本学で学ぶ一人一人が受け継いでいます。

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

キリスト教を教育の基本方針となす本学の建学の理念に基づき、高度の専門の学術に関して、その研究方法、理論及び応用を教授研究し文化の進展に寄与するとともに、人類の福祉と世界の平和に貢献する能力をもった女性を育成する。(大学院学則第1条)

フェリス女学院大学大学院では、上記の人材養成目的を実現するために、各研究科・専攻における人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを定めています(該当ページを参照してください)。

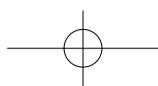
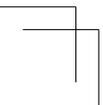
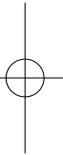
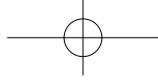
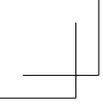
ディプロマ・ポリシーは大学から社会に対する約束です。博士前期(修士)、博士後期課程を修了する時点で最低限できるようになっていることを表しています。したがって、ディプロマ・ポリシーは、修了時には必ず達成されなければなりません。

カリキュラム・ポリシーは、この達成のために学生が体系的性と整合性が担保されたカリキュラムで学べるよう定めるものです。

各研究科、専攻

次の該当ページを参照してください。

人文科学研究科	pp.26～27
国際交流研究科	pp.40～41
音楽研究科	pp.58～59



大学院共通事項

履 修

人文科学研究科

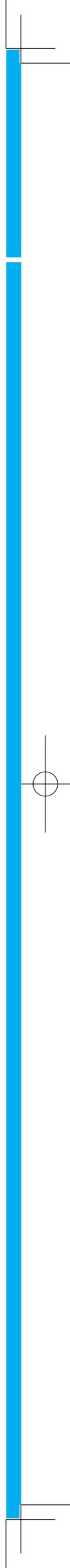
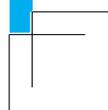
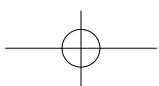
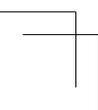
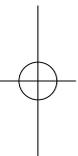
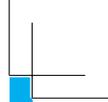
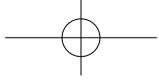
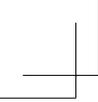
国際交流研究科

音楽研究科

大学院開講科目表

学 籍

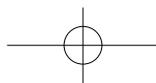
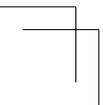
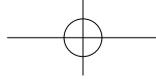
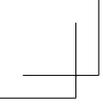
資 料 編



大学院共通事項

大学院の人材養成目的

キリスト教を教育の基本方針となす本学の建学の理念に基づき、高度の専門の学術に関して、その研究方法、理論及び応用を教授研究し文化の進展に寄与するとともに、人類の福祉と世界の平和に貢献する能力をもった女性を育成する。(大学院学則第1条)



履修

履修

履 修

授 業

授業時間

緑園校舎・山手校舎ともに学部に準じます。

緑園校舎

第1時限	第2時限	礼拝(月～金)	第3時限	第4時限	第5時限
9:00 ∪ 10:30	10:40 ∪ 12:10	12:20 ∪ 12:40	13:10 ∪ 14:40	14:50 ∪ 16:20	16:30 ∪ 18:00

山手校舎

第1時限	第2時限	礼拝(木)	第3時限	第4時限	第5時限
9:10 ∪ 10:40	10:50 ∪ 12:20	12:30 ∪ 13:00	13:50 ∪ 15:20	15:30 ∪ 17:00	17:10 ∪ 18:40

国際交流研究科（緑園校舎）で夜間開講とする場合の授業時間は次のとおりです。

第6時限	第7時限
18:10 ∪ 19:40	19:50 ∪ 21:20

スクールバス

両キャンパスを1日に2往復しています。(定員：26名)

各便の発着予定時間は次のとおりです。

- ① 山手6号館(12:25発) → 山手4号館(12:30頃着) → 緑園正門横(13:05頃着)
- ② 緑園正門横(13:10発) → 山手6号館(13:40頃着) → 山手4号館(13:45頃着)
- ③ 山手6号館(15:35発) → 山手4号館(15:40頃着) → 緑園正門横(16:15頃着)
- ④ 緑園正門横(16:30発) → 山手6号館(17:10頃着) → 山手4号館(17:15頃着)

年間運行日は、バス停に掲示します。授業期間外は運休です。

休 講

大学又は各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合、授業を休講とすることがあります。休講情報は、FerrisPassport、掲示にて周知します。

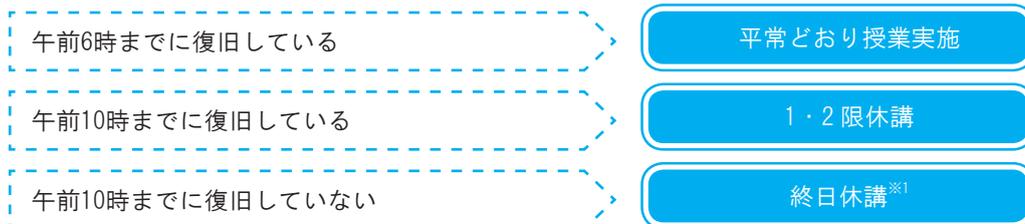
休講の掲示がなく、授業開始後30分以上経過しても担当者が入室しない場合は、自然休講とします。

休講についての電話照会には応じません。

全学休講措置

交通機関不通の場合

ストライキ、台風又は事故等による交通機関不通の場合、各校舎において次のような措置をとります。



※1 授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。

対象となる交通機関

緑園校舎：相模鉄道線

山手校舎：JR 根岸線及びみなとみらい線^{※2}

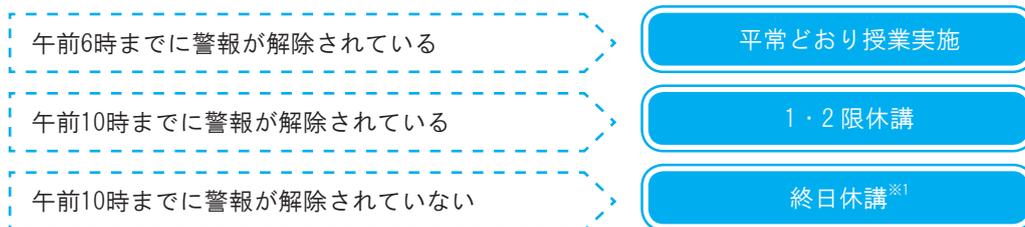
※2 山手校舎については、両線が不通となった場合のみ。いずれかの線が運行している場合は該当しない。

神奈川県下に暴風警報、暴風雪警報又は特別警報が発令された場合

台風接近等により、神奈川県全域又は神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に暴風警報又は暴風雪警報が発令された場合、次のような措置をとります（警報は「気象庁」もしくは「横浜地方気象台」（045-177）発表のものとしします）。

また、神奈川県全域又は神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に特別警報（大雨、暴風、暴風雪及び大雪）が発令された場合も、上記に準じます。

休講措置をとる場合は、本学 Web サイト、FerrisPassport 及び緊急連絡システムにて周知します。



※1 授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。

新型インフルエンザが流行した場合

新型インフルエンザが流行し、厚生労働省から新型インフルエンザ対策行動計画が緑園・山手両キャンパスの近隣地域で発令された場合は、感染防止のため、発令が解除されるまで終日休講とします。

大規模地震の警戒宣言が発令された場合

大規模地震の判定会^{※1}が招集された場合や警戒宣言等が発令された場合には、休校とします。警戒宣言等が解除された時の授業再開については、交通機関が不通になった場合に準じます。

※1「大規模地震対策特別措置法」に基づく「地震防災対策強化地域判定会」

補 講

大学又は各授業担当者のやむを得ない事情により、休講となった授業については、原則として補講を行います。また、担当者の判断により補講を実施することがあります。

補講情報は、FerrisPassport、掲示によって通知します。担当者から直接指示があった場合、その指示に従ってください。

授業欠席

大学では、授業を欠席する場合、原則として授業担当者に伝達するなどの措置はとりません。ただし、下記の事情により欠席する場合には、「感染症罹患届」又は「欠席届」の手続きを受け付けますので、速やかに申し出てください。出欠の扱いは各授業担当者の判断に委ねられています。

	欠席理由・状況	取扱窓口	必要書類	備 考
①	感染症にかかった	教務課	「診断・登校許可証明書」または「医師の診断書」(出席停止期間が確認できるもの)	※2を参照。
②	傷病等の理由により、2週間以上続けて欠席する	教務課	「医師の診断書」等、欠席理由・期間を証明できるもの	
③	忌引	教務課	欠席日を確認できる「会葬礼状」または死亡を確認できる公的証明書(写)	※3を参照。
④	裁判員に選任され、審理に参加する	教務課	裁判所が発行する証明書	
⑤	その他特別な事情により、2週間以上続けて欠席する	教務課	理由を証明する書類	

※証明書類は当該科目の授業日に出席できなかったことを証明するもの、「〇月〇日～〇月〇日」のように期間が明記されたものでなければなりません。

※2 感染症にかかった場合

学校感染症（学校保健安全法施行規則第3章第18条）にかかっていると疑われる場合には、通学を見合せ、速やかに医師の診療を受けてください。医師が通学を許可するまでの期間、出席停止となります。医師の許可がでたら、必要書類を教務課に提出してください。

学校感染症

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。）、中東呼吸器症候群、インフルエンザ、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風疹、水痘、咽頭結膜熱、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

※3 忌引の場合

次の続柄の親族が亡くなった場合は、必要書類をもって教務課に申し出てください。忌引日数は、死亡日もしくは葬儀の日を含む次のとおりとします。日数には、土日・祝日を含みます。

続 柄	忌引日数
配偶者、父母、子	連続7日以内
配偶者の父母	連続5日以内
祖父母、孫、兄弟姉妹、配偶者の兄弟姉妹	連続3日以内

単位制度

本学で修得した単位の認定

授業科目の単位の認定は、平常点評価及び試験によって行われます（大学院学則第10条）。
授業の方法により、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次のとおり単位数を定めています。
なお、本学では1回（90分）の授業を 2時間 として計算しています。

人文科学研究科・国際交流研究科

- (1) 講義科目・演習科目
毎週2時間、1学期15週の授業で2単位とします。
- (2) 単位の認定
筆記もしくは口頭による試験又は研究報告によるものとします。

音楽研究科

- (1) 講義科目・演習科目
毎週2時間、1学期15週の授業で2単位とします。
- (2) 選択 PA 科目

実技レッスン A, B	毎週1時間、1学期15週の授業で3単位
特別実技レッスン A, B	毎週1/3時間、1学期15週の授業で1単位

- (3) 単位の認定
筆記・口頭もしくは実技による試験又は研究報告によるものとします。

履 修

履修上の注意

1. 履修方法

各専攻の「授業科目の履修方法」を見てください。

2. 履修登録

履修登録は、学生がその学期・学年に履修するすべての授業科目を申告する手続です。定められた期間に、履修登録及びその確認を行わない学生は、その学期における履修の権利を放棄したものとみなします。また、履修登録及びその確認の手続不備等による不利益は本人の責任となるので、十分注意してください。

(1) 履修登録上の注意

- ① 履修登録は、本人の責任において行うこと。
- ② 履修上の注意に違反して履修登録を行うことはできない。
- ③ 履修登録は、定められた履修登録期間のみ受け付ける。理由なく手続を行わなかった場合は、当該学期・学年の授業科目の履修は一切認められない。
- ④ 通年科目は前期に履修登録を行うこと。
- ⑤ 集中講義科目及び海外研修など、休業期間を利用した授業科目は、通常科目とは異なる日程で履修登録を行うので注意すること。
→p.17「2016年度履修のスケジュール」
- ⑥ 履修登録を行った際には、必ず「学生時間割表」を印刷、保管しておくこと。登録の確認を行う際、「学生時間割表」が唯一の根拠となります。

(2) 履修登録

- ① 履修登録は、学内のパソコン及びインターネットに接続できる環境にあれば、学外からも行うことができます。（この場合も、本学が発行するアカウントが必要です。）ただし、学外から履修登録を行う場合、個々の環境によっては、システムがうまく動作しないこともあります。その場合には、学内で履修登録を行ってください。また、履修登録確定後、必ず「学生時間割表」を印刷、保管してください。

履修登録期間中、システムに不具合が生じたり学内でのパソコンの稼働状況に変更があった場合には、次の方法でお知らせします。

- ・本学公式 web サイト (<http://www.ferris.ac.jp/>)
 - ・FerrisPassport
 - ・学内掲示板
- ② 履修登録期間中には、学内のパソコン利用が混雑したり、パソコンの動作が遅くなることも予想されますので、あらかじめ科目を決定したうえで、時間的な余裕を十分に持って登録してください。
 - ③ 履修登録期間終了後の登録科目の追加・変更は、必修相当の授業科目を除き、認められません。

(3) 遅延登録

やむを得ない理由（学部の追試験許可理由に準ずる。）により、履修登録期間に手続できない場合は、最終日の翌日から数えて7日以内（休日を含む。）に必要な書類（「遅延登録願」及び証明書等）を提出し、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。

その他の理由で遅延して履修登録を希望する者は、所定用紙（「遅延登録願」）によって願い出て、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。この場合、遅延手数料（5,000円）が徴収されます。

(4) 登録確認・訂正申告

履修登録期間終了の翌日以降、FerrisPassport で登録科目の確認ができます。必ず履修登録時の「学生時間割表」と照合し、その学期に履修すべき科目がもれなく登録されているかを確認してください。

登録されていない科目がある場合は、履修登録時の「学生時間割表」を印刷して持参し、定められた期日までに教務課で訂正申告の手続きを行わなければなりません。

3. 集中講義科目の履修

授業科目によっては、通常の授業期間外に、集中講義によって授業を行うことがあります。

(1) 日程

集中講義科目の日程は、次のように定められています（一部科目を除く）。

前期	集中講義期間（第1ターム）	2016年8月2日（火）～6日（土）
	集中講義期間（第2ターム）	2016年8月29日（月）～9月2日（金）
後期	集中講義期間（第1ターム）	2017年2月6日（月）～10日（金）
	集中講義期間（第2ターム）	2017年3月1日（水）～4日（土）、6日（月）

科目ごとの日程の詳細は、掲示によって発表します。

(2) 授業時間

集中講義期間中に限り、緑園校舎、山手校舎の授業時間が同一となります。

【緑園・山手校舎授業時間】

時限	授業時間
1	9:00～10:30
2	10:40～12:10
3	13:10～14:40
4	14:50～16:20
5	16:30～18:00

(3) 注意事項

- ① 卒業年次生は卒業学期に集中講義期間（第2ターム）の科目を履修することはできません。
- ② 日程が重複する複数の集中講義科目がある場合、履修できるのは一科目のみです。
- ③ 集中講義の日程が他の学事と重なることによって、すべての授業に出席できない場合、当該集中講義科目を履修することはできません。

履修登録の方法等は、学部に準じます。ただし、大学院学生に対しては、GPA 制度及び履修登録科目の取消し制度は適用されません。

詳細は4月のオリエンテーションで確認してください。

他専攻、他研究科、学部の授業科目の履修

(1) 指導教授が学生の研究上特に必要と認める場合

指導教授が学生の研究上特に必要と認めるときは、他専攻、他研究科、学部の授業科目を履修させることがあります。その授業科目の単位については、所属する研究科の研究科委員会で審議の上、承認が得られた場合に、8単位を超えない範囲で博士前期課程・修士課程の修了に必要な単位として認められます。

ただし、研究科への入学以前に、本学の学部において修得した授業科目のうち、重複履修不可の授業科目を再度履修した場合には、これを修了要件に算入することはできません。

(2) 学生本人が希望する場合

学生本人の希望により、他専攻若しくは他研究科又は学部の授業科目の履修をする場合は、当該科目を所管する研究科委員会又は学部教授会の承認が得られた科目に限り履修が認められます。

なお、この場合は、修了に必要な単位としては認められません。

(3) 長期履修学生の場合（国際交流研究科のみ）

別に定めます。国際交流研究科博士前期課程「履修方法」を参照してください。

履修手続き方法

上記（1）（2）により、他専攻若しくは他研究科又は学部の科目を履修する場合は、「他専攻、他研究科、学部の授業科目履修願」（教務課及び山手事務室備付）に記入の上、教務課または山手事務室に提出してください。

詳細については、4月オリエンテーション時に説明します。

2016年度 履修のスケジュール

	前期	後期	参照・備考
成績通知	3月末 (2015年度後期分)	9月14日(水) (2016年度前期分)	
成績評価確認願 (希望者のみ)	～4月11日(月)18:00	～9月26日(月)18:00	
履修登録	4月5日(火) 14:00 ～4月6日(水) 23:59 4月8日(金) 13:00 ～4月18日(月) 18:30	9月20日(火) 9:00 ～9月21日(水) 12:00 9月23日(金) 13:00 ～10月3日(月) 18:30	
履修者数制限科目 希望受付	4月5日(火) 14:00 ～4月6日(水) 23:59	9月20日(火) 9:00 ～9月21日(水) 12:00	
履修者数制限科目 履修許可者発表	4月8日(金) 13:00	9月23日(金) 13:00	発表は FerrisPassport 及び 教務課掲示板で行います。

授 業 受 講 開 始

履修登録確認・訂正申告	4月19日(火) 9:00 ～4月25日(月) 18:00 ※遅延登録者は登録日から 7日以内(土日を含む)	10月4日(火) 9:00 ～10月10日(月) 18:00 ※遅延登録者は登録日から 7日以内(土日を含む)	この期日を過ぎた申し出は 理由の如何を問わず一切認め られません。
遅延登録(注)	4月19日(火) 9:00 ～4月25日(月) 18:00	10月4日(火) 9:00 ～10月10日(月)18:00	
履修登録 (集中講義、海外語学実習等 希望者のみ*)	6月23日(木) 9:00 ～6月27日(月) 18:00	11月23日(水) 9:00 ～11月25日(金) 18:00	p.16 参照 この期間を過ぎての遅延登録、 履修取消は一切認められません。

*集中講義科目や海外研修など、休業期間を利用した授業科目の履修登録期間は、通常の科目とは別に設定されています。

(注)：大学が認める理由に該当した場合は遅延手数料が免除されます。

試験

試験の方法等は、学部によります。学部の授業科目を履修する者は、「学生要覧」（学部生対象）の「試験」を参照してください。

成績評価

1. 成績評価

成績評価の基準は、次のとおりです。

合格	100点～80点	A
	79点～70点	B
	69点～60点	C
不合格	59点以下	F
	筆記・実技試験を欠席、もしくはレポートを提出しなかった。	G
	出席が3分の2に満たず受験資格なしと判定された、もしくはその他の理由による。	H

2. GPA 制度

大学院学生に対しては、GPA 制度は適用されません。

3. 成績通知（FerrisPassport）・成績証明書への表示

成績通知の際には上記の評価がすべて表示されますが、成績証明書には「F」「G」「H」は表示されません。また、本学以外で修得した単位の認定については、成績通知及び成績証明書に授業科目名：「単位認定」、評価：「N」と記載されます。

4. 成績通知

(1) 学生本人への通知

成績通知は、下記の日程にて FerrisPassport で行います。

【学生本人への成績通知日】

前期	2016年9月14日（水）
後期	2017年3月末

(2) 保証人への通知

保証人に対する成績通知は、学期ごとに郵送で行います。ただし、特別な事情によって保証人への通知を希望しない場合は、所定用紙（教務課、山手事務室備付）をもって通知の停止を願い出すことができます。願い出が受理された場合、保証人への成績通知を停止し、別途、通知停止となった旨のお知らせをします。

【保証人あて郵送日】

前期	2016年10月下旬（予定）
後期	2017年5月中旬（予定）

単位認定

他大学院等で修得した単位の認定

他大学の大学院又は研究所等の授業科目を修得した単位は、研究科委員会の定めるところにより、10単位を超えない範囲で本大学院において修得したものとみなすことができます（大学院学則第9条）。

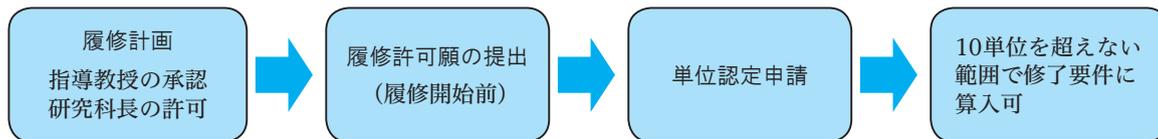
なお、外国の大学院又は研究科委員会で教育上有益と認めた研究所等で修得した単位の認定についても、「他大学院等で修得した単位の認定」（大学院学則第9条）に準じて手続きを行ってください。

(1) 手続き

指導教授の承認を得て、他大学大学院の授業科目履修の手続きを行い、研究科長の許可を得た後、履修願を提出しなければなりません。

(2) 修了要件への算入

この方法により修得した単位は、合わせて10単位を超えない範囲で、博士前期課程又は修士課程の修了に必要な単位（選択科目の単位）として認められます。



申請先	教務課（緑園）	
申請方法	次の①→②の順序で手続きが必要です。 ① 履修開始前 「他大学院等での科目等履修願」（教務課備付）に記入し、指導教授の承認印を得た上で、次の書類を添付して提出してください。修了予定学期における履修は修了要件に含まれない場合がありますので、あらかじめ教務課に相談してください。 添付書類：科目等履修を行う大学院等の履修要項 シラバス等授業内容を示す書類のコピー ② 履修後 上記①の手続により、履修許可を受けた上で「単位認定申請書」（教務課備付）に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類：成績証明書、履修要項、シラバス等授業内容を示す書類のコピー	
手続期限	2016年度後期履修	① 6月末まで
		② 履修終了後1か月以内
	2017年度前期・後期履修	① 1月末まで
		② 履修終了後1か月以内
*新入生の申請期限については、教務課に問い合わせてください。		

神奈川県内大学院学術交流協定で修得した単位

神奈川県内の大学間における大学院学術交流協定（以下「神奈川県内大学院学術交流協定」という）に基づき、協定校の特別聴講学生、特別研究生となること及び共同研究への参加ができます。

履修・単位認定申請の条件は次のとおりです。

申請先	教務課、山手事務室
申請方法	指導教授と相談の上、「特別聴講学生推薦書」及び「特別聴講学生申請書」（教務課、山手事務室備付）を提出してください。 手続きの詳細は、配布する資料（教務課、山手事務室備付）で確認してください。
申請期間	各大学院が設定した締切日4日前まで（受入先大学院によっては、後期に申請を受け付ける場合があります。教務課に問い合わせてください。）
注意事項	① 時間割、講義内容については各大学のホームページで閲覧してください。 ② 修得した単位は、「他大学の大学院において修得した単位」に準じた扱いとします。 ③ 修了予定学期の単位は修了要件単位としては認められません。

入学前に他大学院等で修得した単位

本大学院への入学以前に、本大学院あるいは他の大学院で修得した単位は、所定の手続きにより、本大学院で修得したものとみなすことができます。

(1) 手続き

単位認定を希望する場合は、下記の期日までに教務課に申し出て、所定の手続きを行ってください。研究科委員会で審議の上、認定の可否を決定します。なお、この場合の単位認定申請は、入学年度に限って受け付けます。

(2) 修了要件への算入

合わせて10単位を超えない範囲で、本大学院で修得したものとみなすことができ、博士前期課程の修了に必要な単位（選択科目の単位）として認められます。

→大学HP 大学院学則第8条の2

ただし、国際交流研究科は、入学前に本大学院で修得した単位のみ、選択必修分の修了要件単位として認めることがあります。

申請先	教務課
申請方法	所定用紙（「単位認定申請書」：教務課備付）に記入し、次の書類を添えて提出してください。 添付書類：「成績証明書」「履修要項」「講義内容」
申請期間	2016年4月2日（土）まで

学位申請論文等*及び最終試験等について

各専攻の該当箇所を参照してください。

* 人文科学研究科・国際交流研究科：「修士論文」「博士の学位申請論文」
音楽研究科：「修士研究・修士副論文」

修了者発表

博士前期課程・修士課程及び博士後期課程修了者の氏名は、次の日時に掲示、FerrisPassport によって発表します。

【修了者発表】

日時	2017年2月24日（金）夕方
場所	緑園校舎・山手校舎・FerrisPassport

9月修了

1. 9月修了希望届

2016年度9月修了を希望する者は、次の期日までに「9月修了希望届」(教務課、山手事務室備付)を教務課又は山手事務室に提出してください。

「9月修了希望届」提出期限	2016年4月15日(金)
---------------	---------------

2. 2016年度9月修了希望者に係る日程

人文科学研究科・国際交流研究科

「修士論文題目届」提出	期限	2016年5月13日(金)
	提出場所	教務課
「修士論文」提出	日時	2016年7月6日(水)～8日(金) 9:00～16:00 提出時間厳守
	提出場所	教務課
最終試験期間		2016年7月下旬
9月修了者発表・成績通知		2016年9月14日(水)
9月学位授与式		2016年9月28日(水)

音楽研究科

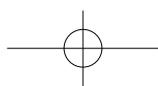
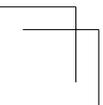
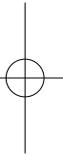
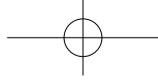
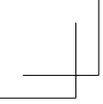
「修士研究題目届」 「修士副論文題目届」提出	期限	2016年5月13日(金)
	提出場所	山手事務室
「修士研究」 「修士副論文」提出	日時	2016年7月12日(火)～14日(木) 9:00～16:00 提出時間厳守
	提出場所	山手事務室
最終試験期間		2016年7月下旬～8月初旬
9月修了者発表・成績通知		2016年9月14日(水)
9月学位授与式		2016年9月28日(水)

学修支援

TA（ティーチング・アシスタント）制度

ティーチング・アシスタント（TA）制度は、大学院の学生に教育・研究能力を高める機会を提供すること、学部教育効果を高めることを目的としています。概要は次のとおりです。

応募資格	本学博士前期課程、博士後期課程に在籍する学生
担当業務	担当教員の指示に従い、学部専門科目の実習・演習・講義等において教育業務を補助すること。学生の理解度促進のための指導や支援も経験できます。
募集時期	前期科目：2月、後期科目：6月 募集要項は、FerrisPassport に掲示します。
選考・採用	各専攻が指定する対象科目ごとに選考を経て採否が決定されます。
窓口	大学総務課 関心のある学生は、募集要項を確認の上、問い合わせてください。



人文科学研究科

博士前期課程

博士後期課程

人文科学研究科

人文科学研究科の人材養成目的

人文科学の領域に関する理論及び応用を教授研究し、優れた研究能力を持つ研究者、高度に専門的な見識と能力を備えた職業人、多様化する社会で他者と共生し、主体的に表現できる豊かな素養を身に付けた社会人を養成する。

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

博士前期課程

◆ディプロマ・ポリシー

人文科学の領域における高度な専門知識と研究方法・技法を習得し、その専門的見地から多様化する社会に、社会人・職業人として貢献できる能力をもつ者に「修士（文学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

人文科学の領域において、キリスト教、ジェンダー、多文化理解の視点を背景に、少人数の専門研究と修士論文の作成を通じて、専門的見地から多様化する社会を理解し、社会人・職業人として社会的貢献ができる高度の能力を養う。

博士後期課程

◆ディプロマ・ポリシー

人文科学の領域において、自立した研究者として必要とされる高度な専門知識と研究方法・技法を習得し、その専門的見地から多様化する社会に、職業人・研究者として貢献できる能力をもつ者に「博士（文学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

人文科学の領域において、キリスト教、ジェンダー、多文化理解の視点を背景に、少人数の専門研究と修士論文の作成を通じて、専門的見地から多様化する社会を理解し、職業人・研究者として社会的貢献ができる高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う。

カリキュラムの説明

人文科学研究科 英文学専攻

英文学専攻博士前期課程・後期課程では、英米文学、英米文化、英米社会史、英語学に関する高度な専門知識と研究方法を習得し、日本国内のみならず国際的な諸状況の解決にも主体的に貢献できる人間の育成を目的としている。

英文学専攻が教育目標としてきたのは、キリスト教精神に基づき、女性の立場に立ち、国際的な視野をもった人材の養成である。こうした見地に立ち、博士前期課程では英語圏文学・文化のテキスト精読といった基礎的研究をもとに、英米文学理論、比較文学・文化研究、児童文学研究、第二言語習得理論など多岐にわたる関連諸学を設置している。

具体的な科目としては、博士前期課程において、選択必修Ⅰにコースワークとしてイギリス文学研究、イギリス文化研究、アメリカ文学研究、アメリカ文化研究、アメリカ社会研究、英語学研究など、英米文学と英米文化の広範囲にわたる研究科目を設置している。また、選択必修Ⅱにはリサーチワークとして、英語論文演習やイギリス文学演習の演習科目を設置している。さらに、選択必修Ⅲでは、修士論文指導の科目を設けることで、修士論文完成への道筋を作っている。選択科目としては、比較文学研究、ジェンダー研究、社会思想史研究、キリスト教思想研究の科目を配置し、本学の人材養成目的の地盤を固めている。

博士後期課程では、前期課程での学びをさらに発展させ、選択必修Ⅰにコースワークとしてイギリス文学特別研究、イギリス文化特別研究、アメリカ文学特別研究などの科目を設置し、選択必修Ⅱにリサーチワークとして博士論文作成のための指導の時間を設けている。

人文科学研究科 日本文学専攻

日本文学専攻博士前期課程・後期課程では、世界の中の日本語学・日本文学という視野に立ち、日本語・日本文学・日本文化に関する高度な専門知識と研究方法・技法を習得し、その専門的見地から多様化する社会に、社会人・職業人として貢献できる高度の能力を養うことを目的としている。

とりわけ、本学の人材養成目的の重要な根幹を成すキリスト教、ジェンダー、多文化理解の視点を背景として、博士前期課程においては、古典籍の翻刻・注釈、文献資料の精読といった基礎的研究をもとに、文学理論、フェミニズム文芸批評、比較文学研究、歴史研究、美術・宗教等の文化研究等、多岐にわたる関連諸学を学び、修士論文を作成するためのカリキュラムを策定している。

具体的には、博士前期課程においては、選択必修Ⅰにコースワークとして日本文化研究を始めとして、上代・中古・中世・近世・近現代・日本語学の各分野における研究科目を設置している。また選択必修Ⅱにリサーチワークとして、上代・中古・中世・近世・近現代・日本語学各分野における演習科目を設置している。また選択必修Ⅲとしては、修士論文指導という論文指導の時間を設け、修士論文完成までの道筋を作っている。選択科目としては、比較文学研究、ジェンダー研究、社会思想史研究、キリスト教思想の科目を配置し、本学の人材養成目的の地盤を固めている。

博士後期課程においては、前期課程での学びをさらに発展させる形で、選択必修Ⅰにコースワークとして古代文学特別研究、中近世文学特別研究、近代文学特別研究、日本語学特別研究という科目を設置し、選択必修Ⅱにリサーチワークとして博士論文作成のための指導の時間を設置している。

人文科学研究科 コミュニケーション学専攻

コミュニケーション学専攻博士前期課程・後期課程では、多文化化する日本国内とポストコロニアル化する世界情勢を見据えながら、行政機関、NPO、メディア・情報などコミュニケーション関連分野の企業、研究機関などで、コーディネート、創造、取材・編集、研究、教育のできる専門的人材を養成することを目的としている。そのため、人間の存在、社会関係、ジェンダー、心理、言語、文化、情報メディアなど幅広い分野について、次の4つの領域を足場に、論理的・実証的な研究を行う。

- ① 心理コミュニケーション分野
対人コミュニケーション、異文化コミュニケーション等に関する調査研究
- ② 社会コミュニケーション分野
情報、教育、マイノリティー問題、現代思想等に関する調査研究
- ③ 言語コミュニケーション分野
方言学、音声学、社会言語等に関する調査研究
- ④ 文化コミュニケーション分野
身体、メディア文化、ジェンダー、多文化社会等に関する調査研究

博士前期課程では、選択必修Ⅰにおいて各分野の研究科目を配当し、選択必修Ⅱで各分野の演習科目が配当されている。選択必修Ⅲとしては修士論文指導が設置されており、修士論文完成までの道筋をつくっている。さらに、社会科学的な調査・研究方法の習得を重視するため、実習・演習中心の「リサーチメソッド」科目が設置されている。学部において社会調査士の資格を取得している者は、リサーチメソッドの履修により専門社会調査士の資格を得ることができる。また選択科目として、比較文学研究、ジェンダー研究、社会思想史研究、キリスト教思想の科目を配置し、本研究科の人材養成目的の地盤を固めている。

博士後期課程では、選択必修Ⅰにおいて各分野の特別研究科目が配当され、選択必修Ⅱで博士論文作成のための指導が行われる。

人文科学研究科 博士前期課程

修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)全てを満たす必要があります。

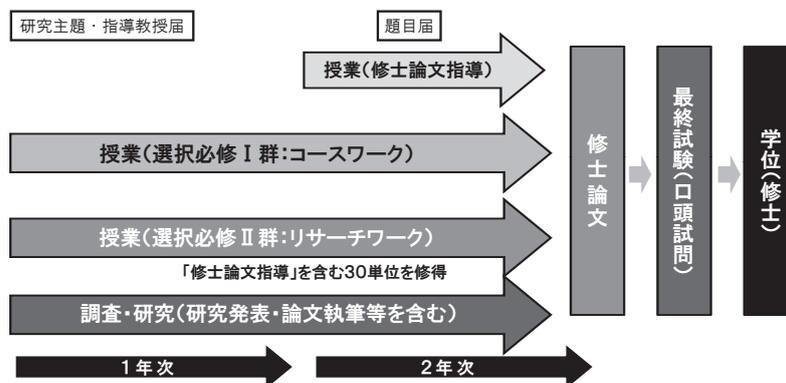
- (1) 在学期間
2年以上在学すること。
- (2) 修得単位数等
 - ① 「修士論文指導」を含む所定の授業科目を30単位以上修得すること。
 - ② 修士の学位申請論文（以下「修士論文」という。）の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りることとします。

また、必修単位数については次のとおり定めます。

科目区分	単位数	備考
選択必修Ⅰ群	4単位以上	「修士論文指導」を含む30単位
選択必修Ⅱ群	8単位以上	
選択必修Ⅲ群「修士論文指導」	4単位	
合計	30単位	

学位(修士)取得までの流れ



履修方法

各専攻所定の授業科目の履修方法

選択必修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ群から履修することとします。

詳細は開講科目表の「履修方法」欄を参照してください。

各学期の履修科目については、履修登録までに指導教授の承認を得てください。

他専攻、他研究科、学部の授業科目の履修

他専攻、他研究科、学部の授業科目の履修及び手続き方法については、p.21を参照してください。

16

同一授業科目の重複履修

(1) 同一担当者の重複履修

同一担当者による同一授業科目を、年度を代えて重複履修し、その修得単位を修了に必要な単位とすることを希望する場合は、指導教授の承認を得た後、各自で履修登録を行ってください。

(2) 担当者が異なる場合の重複履修

同一授業科目で、年度によって担当者が異なる場合は、重複履修して修得した単位を修了に必要な単位とすることができます。

「修士論文指導」の履修

(1) 履修時期及び必修単位数

修了年次の前期と後期に、それぞれ2単位ずつ履修してください。

休学・留学等により、このとおりに履修できない場合は、教務責任者（p.95）の指示を受けてください。

(2) 修了要件への算入

修了要件に算入できるのは、4単位までです。

指導教授・研究主題

各専攻の「修士論文指導」担当者が指導教授となります。

指導教授は、修士論文の作成等に対する指導（研究指導）を行います。

(1) 手続き

学生は、入学後最初の履修登録時に、指導教授の承認を得た上で、「研究主題・指導教授届」（教務課備付）によって、指導教授名及び研究主題を教務課に届け出なければなりません。

(2) 「修士論文指導」の履修

学生は、指導教授担当の「修士論文指導」を履修することとします。

(3) 研究主題・指導教授の変更

特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、「研究主題・指導教授届」（教務課備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。

(4) 研究指導の教員

研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員を定めることがあります。

「修士論文指導」担当者

英文学専攻	梅崎透
	大畑甲太
	近藤存志
	富樫剛
	藤本朝巳
	向井秀忠
	由井哲哉
	渡辺信二

日本文学専攻	勝田耕起
	佐藤裕子
	島村輝
	竹内正彦 (2016年度 特別研修)
	谷知子
	松田浩
	吉田弥生

コミュニケーション学専攻	井上恵美子
	小ヶ谷千穂
	齋藤孝滋
	潮村公弘
	高田明典
	諸橋泰樹
渡辺浪二	

修士論文

下記の要件を満たした者に修士論文を提出する資格が認められます。

- (1) 在学期間
博士前期課程に1年以上在学すること。
- (2) 修得単位数等
修士論文を提出しようとする学期の前学期終了時まで、修了要件単位を20単位以上修得すること。

「修士論文題目届」の提出

修士論文を提出しようとする者は、所定の期日までに、指導教授の承認印を得た上で、「修士論文題目届」(教務課備付)を提出しなければなりません。

期限	2016年11月11日(金)まで
提出場所	教務課(緑園)

「修士論文」の提出

日時	2017年1月10日(火)～1月12日(木) 9:00～16:00 提出時間厳守
場所	教務課(緑園)
部数	1編1部

【修士論文の枚数】

英文学専攻	指導教授の指示による
日本文学専攻	A4サイズ1200字詰 40枚以上
コミュニケーション学専攻	指導教授の指示による

【提出上の注意】

- ① 修士論文は、本人が提出するものとし、所定の提出日時に遅れた場合は、理由のいかんを問わず一切受理されません。
- ② 郵送のものは受理されません。

- ③ 病気、その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は、学部の追試験許可理由（学生要覧参照）に準じて代理人提出が認められることがあるので、教務課まで連絡し、指示を受けてください。
- ④ 提出された論文は返却しません。
- ⑤ この他にも必要に応じて修士論文のコピーの提出を求めることがあります。詳細は各専攻の指示に従ってください。

学位論文審査基準

学位論文審査基準（修士論文）

審査基準

- (1) 研究課題が明確かつ適切であること。
- (2) 精深な学識に基づき、先行研究を十分おさえ、論証に必要な情報収集が適切に行われていること。
- (3) 研究方法、つまり作品・資史料・データの解釈・分析・立論が適切に、一貫性をもって行われていること。
- (4) 論旨が明快かつ矛盾なく展開され、設定した課題に対する結論が明確に示されていること。
- (5) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表などの論文体裁が整っていること。
- (6) 上記の基準を満たした上で、それぞれの達成度によって成績評価が行われる。

審査体制

- (1) 審査委員は、主査1名、副査2名以上とする。
- (2) 審査委員による最終試験（口頭試問）を課す。
- (3) 審査の結果は、人文科学研究科委員会において審議し、修士の学位を授与することの可否を議決する。

最終試験

- (1) 修士論文を提出した者は、当該年度の所定期間に最終試験を受けるものとします。最終試験は、筆記又は口頭によって行います。

【最終試験期間】 2017年1月下旬～2月中旬（詳細は掲示参照）

- (2) 最終試験の方法等は、各専攻が定めます。

専門社会調査士資格認定

社会調査士資格を有する者で、コミュニケーション学専攻において「リサーチメソッド1」（調査計画演習）、「リサーチメソッド2」（多変量解析演習）、「リサーチメソッド3」（質的調査法演習）の単位を修得し、社会調査士資格認定機構に申請した場合、専門社会調査士の資格が認定されます。専門社会調査士の資格取得に関心がある人は、専攻からの掲示等に注意するようにしてください。専門社会調査士資格の詳細に関しては、一般社団法人 社会調査協会の Web サイト (<http://jasr.or.jp>) で見るすることができます。

人文科学研究科 博士後期課程

修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)全てを満たす必要があります。

(1) 在学期間

大学院に5年以上*在学すること。

*修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者については、その2年を含む。

(2) 修得単位数等

①「博士論文指導」を含む所定の授業科目を38単位**以上修得すること。

②博士の学位申請論文の審査及び最終試験に合格すること。

**修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者が、その課程と同種の専攻の博士後期課程に入学した場合は、その専攻の授業科目のうち30単位をすでに修得したものとみなします。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に3年（修士課程又は博士前期課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りることとします。

また、必修単位数については次のとおり定めます。

科目区分	必修単位数
選択必修Ⅰ群	4単位
選択必修Ⅱ群 「博士論文指導」	4単位
合計	8単位

履修方法

各専攻所定の授業科目の履修方法

選択必修Ⅰ、Ⅱ群から履修することとします。

詳細は開講科目表の履修方法欄を参照してください。

各学期の履修科目については、履修登録までに指導教授の承認を得てください。

前期課程等の授業科目の履修

前期課程等の授業科目を履修する場合は、当該科目を所管する研究科等の承認が得られた科目に限り、履修が認められます。詳しくは、p.16の「他専攻、他研究科、学部の授業科目の履修」の(2)及び「手続き方法」を参照してください。

なお、この場合、修了に必要な単位としては認められません。

「博士論文指導」の履修

(1) 履修時期

履修登録は、原則として修了予定年度（3年次）の前期に行い、前期→後期の順に履修してください。
 休学・留学により規定された履修年次・学期に履修することができない場合は、年度を超えて履修することが認められます。該当者は、教務責任者（p.95）の指示を受けてください。
 後期・前期派遣の特別聴講学生が年度を超えて履修する場合は、前期に履修登録してください。

(2) 修了要件への算入

「博士論文指導」の重複履修はできません。
 履修登録は1人の学生が1回のみ行ってください。

指導教授・研究主題

各専攻の「博士論文指導」担当者が指導教授となります。
 指導教授は、博士論文の作成等に対する指導（研究指導）を行います。

(1) 手続き

学生は、入学後最初の履修登録時に、指導教授の承認を得た上で、「研究主題・指導教授届」（教務課備付）によって、指導教授名及び研究主題を教務課に届け出なければなりません。

(2) 「博士論文指導」の履修

学生は、指導教授担当の「博士論文指導」を履修することとします。

(3) 研究主題・指導教授の変更

特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、「研究主題・指導教授届」（教務課備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。

(4) 研究指導の教員

研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員（指導教員）を定めることがあります。

「博士論文指導」担当者

英 文 学 攻 専	近 藤 存 志
	富 樫 剛
	藤 本 朝 巳
	向 井 秀 忠
	由 井 哲 哉
	渡 辺 信 二

日 本 文 学 攻 専	勝 田 耕 起
	佐 藤 裕 子
	島 村 輝
	竹 内 正 彦 (2016年度 特別研修)
	谷 知 子
	松 田 浩

コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 専 攻	齋 藤 孝 滋
	潮 村 公 弘
	高 田 明 典
	諸 橋 泰 樹

研究計画・研究報告

博士後期課程の学生は、毎年度、年度初めの所定の期日までに「研究計画書」（教務課備付）を提出しなければなりません。

また、年度末の所定の期日までに「研究報告書」（教務課備付）を提出しなければなりません。

(1) 「研究計画書」の提出

期限	2016年4月20日（水）まで
提出先	教務課（緑園）

(2) 「研究報告書」の提出

期限	2017年1月20日（金）まで
提出先	各自の指導教授
書式	各専攻が指定。なお、学術雑誌などに発表した論文の抜刷を、研究報告書に代えることができます。

博士の学位申請論文

提出資格

下記の要件を満たした者は、博士後期課程修了予定年次あるいは退学後に博士の学位申請論文を提出することができます。

(1) 在学期間

大学院に4年*以上在学すること。

*修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者については、その2年を含む。

(2) 修得単位数等

「博士論文指導」を含む修了要件単位を38単位以上修得すること（又は修了見込みであること）。

この他、博士課程を経ない者も博士の学位申請論文を提出することができます。

提出の手続き

(1) 博士後期課程修了予定年次の提出

上記の資格を満たし、博士の学位申請論文を提出しようとする者は、提出を希望する年度の4月*に、当該年度の「研究計画書」のほかに、次頁のとおり所定の「博士学位申請論文計画書」（教務課備付）等の書類を提出しなければなりません。

人文科学研究科委員会において、「博士学位申請論文計画書」（教務課備付）が受理された場合のみ、論文を提出することができます。この場合、論文提出日は10月*とします。

*「博士学位申請論文計画書」等及び論文の提出期限は、次頁以降のとおりです。

(2) 退学後の提出

① 退学後3年以内

博士課程において5年以上在学し、所定の授業科目を38単位以上修得して退学した者が、退学後3年以内に博士の学位申請論文を提出する場合には(1)と同じ手続きが必要です。

② 退学後3年超

本学の大学院博士課程に5年以上在学し、所定の授業科目を38単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けて退学した者が、退学後3年を超えて博士の学位申請論文を提出する場合には、本学学位規則第13条(博士課程を経ない者の学位申請論文の提出及び博士論文審査手数料)の規定するところにより博士の学位申請論文を提出することができます。

(3) 博士課程を経ない者の提出

本学の大学院博士課程に在籍したことのない者は、本学学位規則第13条(博士課程を経ない者の博士の学位申請論文の提出及び博士論文審査手数料)の規定するところにより博士の学位申請論文を提出することができます。

(2)の②、(3)により博士の学位申請論文を提出しようとする者は、4月末*までに博士学位申請論文及び関係書類を提出する必要があります。予備論文の提出は必要ありません。本学学位規則を参照の上で事前に教務課に相談してください。

*「博士学位申請論文計画書」等及び論文の提出期限は、下記「博士の学位申請論文計画書」の提出の記載のとおりです。

(4) 審査手数料

博士学位の申請を行う者は、「大学院博士学位申請論文等の審査手数料に関する内規」に基づき、次のとおり審査手数料を納付する必要があります。

	予備論文審査料	博士学位申請論文審査料
課程による博士学位申請		
(1) 申請時に在籍している者	無料	無料
(2) 申請時、退学後3年以内の者	20,000円	100,000円
(3) 申請時、退学後3年を超える者		150,000円
課程によらない博士学位申請		200,000円

「博士の学位申請論文」の提出

博士の学位申請論文(「本論文」)提出にあたっては、次の手順で予め「予備論文」の審査を受け、合格する必要があります。

(1) 「博士学位申請論文計画書」の提出

博士の学位申請論文を提出しようとする者は、「博士学位申請論文計画書」をはじめとする、次の書類等(①~④)を提出しなければなりません。

	名称	様式等
①	「博士学位申請論文計画書」	本学所定
②	「予備論文」*	和文 A4サイズ 1200字詰 15枚以上 4部 欧文 A4サイズ ダブルスペース 25枚程度 その他の言語 上記に準ずる分量
③	「履歴書」	本学所定 4通
④	「業績書」	本学所定 4通

提出期限	2016年4月20日(水)
提出場所	教務課(緑園)

「予備論文」の審査に合格した者は、その後の在籍状態にかかわらず翌年度に限り必ずしも②「予備論文」の提出を要しませんが、①、③および④については提出が必要です。

*** 予備論文と予備審査**

「学位申請論文」を「本論文」と呼ぶことがあるのに対し、予備審査のための論文を「予備論文」と言います。予備審査とは、学位申請論文が審査に相当する基準に到達しているかどうかを予め判定するために行います。

(2) 「博士の学位申請論文」(本論文)の提出

博士の学位の申請者は、学位申請論文提出時に、次の書類等を提出しなければなりません。

課程による者(課程博士)

	名 称	様式等
①	博士学位申請書	本学所定
②	博士学位申請論文	1編4部
③	論文要旨	4部
④	論文目録	本学所定 4通
⑤	履歴書・業績書	本学所定 4通

【博士の学位申請論文の枚数】

英文学専攻	和文	400字詰	300枚以上
	英文	A4サイズ ダブルスペース	150枚以上
日本文学専攻	和文	A4サイズ 1200字詰	70枚以上
コミュニケーション学専攻	和文	指導教授の指示による	

*作成様式等詳細については、別に定めます。

提出日時	2016年10月24日(月)～28日(金) 9:00～16:00 提出時間厳守
提出場所	教務課(緑園)

【各専攻における提出要件】

各専攻において下記のとおり博士の学位申請論文として提出するための要件が定められています。

英文学専攻	専攻の指示による
日本文学専攻	博士の学位申請論文を提出する前に、専攻の認める日本学術会議協力学術研究団体に登録されている学会等の、査読を有する機関誌において、当該分野における研究論文が1本以上掲載されていることが必要です。
コミュニケーション学専攻	専攻の認める、査読を有する機関誌において、当該分野における研究論文が1本以上掲載されていることが必要です。

【提出上の注意】

- ① 博士の学位申請論文は、本人が提出するものとし、所定の提出日時に遅れた場合は、理由のいかんを問わず一切受理されません。
- ② 郵送のものは受理されません。
- ③ 病気、その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は、学部の追試験許可理由(学生要覧参照)に準じて代理人提出が認められることがあるので、教務課まで連絡し、指示を受けてください。
- ④ この他にも必要に応じて修士論文のコピーの提出を求めることがあります。詳細は各専攻の指示に従ってください。

博士の学位申請論文の撤回

博士の学位申請論文の提出後、最終試験実施日から7日後までであれば、博士の学位申請論文の撤回を申し出ることができます。撤回の必要がある場合は、指導教授又は教務課までご相談ください。

学位論文審査基準

学位論文審査基準（博士論文）

審査基準

- (1) 研究課題が明確かつ適切で、さらに独創性があること。
- (2) 先行研究を十分おさえ、論証に必要な情報収集が適切に、かつ自主的に行われていること。
- (3) 研究方法、つまり作品・資史料・データの解釈・分析・立論が適切に、一貫性をもって行われていること。
- (4) 論旨が明快かつ矛盾なく展開され、設定した課題に対する結論が明確に示され、その結論が独創的であること。
- (5) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表などの論文体裁が整っていること。
- (6) 上記の基準を満たした上で、当該学問分野において、研究を進展させる学問的価値があること、豊かな学識を有し、自立して研究活動を行うことができ、専門的な業務に従事するに必要な能力を示すものであること。

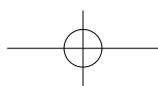
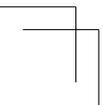
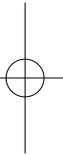
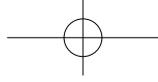
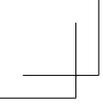
審査体制

- (1) 審査委員は、主査1名、副査2名以上とする。なお、副査のうち、1名は学外者とする。
- (2) 審査委員による最終試験（口頭試問）を課す。
- (3) 審査の結果は、人文科学研究科委員会において審議し、博士の学位を授与することの可否を議決する。

最終試験

博士の学位申請論文を提出した者は、当該年度の所定期間に最終試験を受けるものとします。最終試験は、筆記又は口頭によって行います。

【最終試験期間】 2017年2月（詳細は各専攻から指示されます）



国際交流研究科

博士前期課程

博士後期課程

国際交流研究科

国際交流研究科の人材養成目的

人材養成目的国際交流の領域に関する理論及び応用を教授研究し、優れた研究能力を持つ研究者、高度に専門的な見識と能力を備えた職業人、グローバル化の時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識を身に付けた社会人を養成する。

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

博士前期課程

◆ディプロマ・ポリシー

国際交流の領域における高度な専門的見識・能力と、グローバリゼーションの時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識を身に付け、国際社会のさまざまな場面で社会人・職業人として独創性・創造性ならびに優れた判断力を発揮できる者に「修士（国際交流）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

国際交流の領域に関する理論及び応用を「グローバリゼーション研究」「グローバリゼーションと地域社会」「グローバリゼーションと日本」の3研究群に分けて教授し、各自のテーマに即した研究群を選択して研究を進めさせるとともに、専門分野の枠を越えた総合的知識を獲得させ、社会人・職業人として必要な国際社会に関わる専門的見識と高い教養を養う。

博士後期課程

◆ディプロマ・ポリシー

国際交流の領域において、自立した研究者として必要とされる高度な専門的見識・能力と、グローバリゼーションの時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識・考察力を身に付け、国際社会のさまざまな場面で職業人・研究者として独創性・創造性ならびに優れた判断力を発揮できる者に「博士（国際交流）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

国際交流の領域に関する高度な理論及び応用を教授し、各自のテーマに即した研究群を選択して研究を進めさせるとともに、専門分野の枠を越えた総合的知識・考察力を獲得させ、職業人・研究者として必要な国際社会に関わる高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う。

カリキュラムの説明

国際交流研究科 国際交流専攻

グローバリゼーションは歴史の巨大な変化と共に進展し始め、今やそこには多くの難題が立ち現れるに至った。階層間、地域間、民族間などでの格差の拡大や、地球規模での環境破壊など。しかしそれらは直ちに均質な世界が成立することを意味しない。現状をとらえるためには、グローバリゼーションに組み込まれつつある世界の各地域についての観察も必要である。私たちが生活の本拠をおく日本社会もまたそのような地域の一つである。それゆえ現代日本が直面する諸問題にも取り組まなければならない。

以上のような考えから、本研究科前期課程のカリキュラムはグローバリゼーションに関わる3つの科目群から構成される。第1群「グローバリゼーション研究」では現代社会、国際関係、社会運動の関係において理論的分析力の涵養をはかり、第2群「グローバリゼーションと地域社会」では世界の各地域社会、各地域文化との関係においてローカル・ノリッジの獲得に力点を置き、第3群「グローバリゼーションと日本」では日本と諸外国の関係において、身近な日本を対象として国際的な関連の中にある社会諸現象の具体的な理解を促進する。院生は一つの群に軸足をおきつつ、他の2群にも目を配り、全体を大きく見渡すことが求め

られる。また各群にキリスト教関連科目がおかれていることは、全体を統一する視点に、本学の建学の精神が位置づけられていることを表している。

世界が歩みつつある新しい状況の中で適切に対処するためには、社会諸科学の知と具体的生活体験の接触と交流によって、新しい学問的知見を求めていかなければならない。すなわち職業生活や社会生活を体験している者はそこで遭遇した諸問題を諸科学と、諸科学をいわば座学として学んできた者はそれらを実社会の現実の問題と、積極的に対比し、ぶつけ合うことによってこそ、新たな地平が拓かれるのである。そのような知と実践の相互刺激をめざし、本研究科では社会人を積極的に受け容れ、研究者との切磋琢磨をはかっている。またジェンダー関連科目を必修にした上で、男女共学制を実施している。

さらに、研究を文献や資料に裏付けられた確実なものにするために、「文献講読」、「言語演習」などの科目がおかれている。また研究を現実の体験や理解によって裏付けるためには「国際交流実務研修」があり、海外の様々な団体・機関などで行った活動を単位認定の対象としている。

前期課程においては、国際交流に関わる領域で、専門的な見識と高い教養を備えた職業人の養成を図る。たとえばいくつかの専門性にまたがる実践応用分野で、現地のフィールド調査を行い、現地の住民に何が大切であるかを判断できる人材である。

また本研究科後期課程では、みずからの設定した研究テーマについて高度に専門的な理解を深めることを目的とする。そのために指導教授の「特別研究」を履修し、毎年度始めに研究計画書を、毎年度末に研究報告書を提出して、研究を進めていく。「学位申請論文」を提出するためには、まず「論文計画書」と「予備論文」の提出が義務づけられる。いずれも総合的かつ学際的視点と独創性を備えた研究を実現させるための制度である。

後期課程を修了した者は、専門知と実践知を媒介し、従来の専門諸分野の越境とそれによる新たな総合を特徴とする研究者あるいは専門研究職ポストに就くことが期待される。

国際交流研究科 博士前期課程

修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)を満たす必要があります。

- (1) 在学期間
2年以上在学すること。長期履修学生は4年以上在学すること。
- (2) 修得単位数等
- ① 「修士論文指導」または「修了レポート指導」を含む所定の授業科目を30単位以上修得すること。
 - ② 修士の学位申請論文（以下「修士論文」という。）または特定の課題についての研究の成果（「修了レポート」2編）の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りることとします。（長期履修学生を除く。）

必修単位数については次のとおり定めます。

ただし、下記の①と②、①と④については1つの科目で同時に該当するものとすることができます。また、指導教授を変更した場合、変更前に修得した単位も①に該当することとします。

「修士論文」選択者

	科目区分	単位数	備考
①	指導教授の担当科目*	4単位	*「修士論文指導」は含まれません。
②	「ジェンダー」関連科目から	2単位	
③	指導教授が担当する「修士論文指導」	合計4単位	
合 計		30単位	

「修了レポート」選択者

	科目区分	単位数	備考
①	指導教授の担当科目*	4単位	*「修了レポート指導」は含まれません。
②	「ジェンダー」関連科目から	2単位	
③	指導教授が担当する「修了レポート指導」	合計4単位	
④	「自分史の書き方・時代の見方」	2単位	
合 計		30単位	

履修方法

各学期の履修科目については、履修登録までに指導教授の承認を得てください。

履修の流れ

本課程では、指導教授による指導のもと次のとおり修士論文提出までのスケジュールを定めており、毎学期研究発表会での発表が義務付けられています。

2年間の研究発表スケジュール及び論文を提出するまでの流れ

スケジュール			研究会での達成目標
研究計画 構想を立てる	1年次前期	4月	「研究主題・指導教授届」提出
		7月	研究発表1 研究計画書 自分のテーマと研究プランを発表
先行研究 中間報告	1年次後期	12月	研究発表2 先行研究の整理と問題点の指摘 基礎的研究・調査報告
	2年次前期	7月	研究発表3 執筆状況に関する中間報告 研究要旨の発表
決定稿	2年次後期	11月	「修士論文題目届」提出 研究発表4 提出に向け最終発表
		1月	「修士論文」提出
最終試験		2月	『『グローバル』掲載要旨原稿』提出 「口述試験の要旨」提出

・発表会は、学内関係者（学部学生、大学院生、教職員）の聴講を認めています。

開講予定

一部の科目を除き、2年に1回開講する形式をとっているため、別表「2016・2017年度開講予定表」を参照して、2年間のプランをたてて履修してください。

同一授業科目の重複履修

(1) 同一担当者の重複履修

同一担当者による同一授業科目を、年度を代えて重複履修し、その修得単位を修了に必要な単位とすることを希望する場合は、指導教授の承認を得た後、各自で履修登録してください。

(2) 担当者が異なる場合の重複履修

同一授業科目で、年度によって担当者が異なる場合は、重複履修して修得した単位を修了に必要な単位とすることができます。

「修士論文指導」「修了レポート指導」の履修

- (1) 履修時期及び必修単位数
修了年次の前期と後期に、それぞれ2単位ずつ履修してください。
休学・留学等により、このとおりに履修できない場合は、教務責任者の指示を受けてください。
- (2) 修了要件への算入
修了要件に算入できるのは、4単位のみです。
- (3) 修了レポートの対象者
「修了レポート」を選択できるのは、社会人（大学院入学時点で大学卒業後3年の社会的経験を経た者）のみとします。

その他履修上の注意

- (1) 長期履修学生が履修登録できる単位数
年間8単位を超えないものとします。
- (2) 学部授業科目の履修（女子のみ）
8単位まで修了要件として認められます。
ただし、長期履修学生が学部授業科目を履修する場合は、年間4単位を上限とします。
希望者は必ず学期始めに教務課で所定の手続きを行ってください。

指導教授・研究主題

「修士論文指導」担当者が指導教授となります。
指導教授は、修士論文の作成等に対する指導（研究指導）を行います。

- (1) 手続き
学生は、入学後最初の履修登録時に、指導教授の承認を得た上で、所定用紙（「研究主題・指導教授届」）によって、①指導教授、②研究主題、③「修士論文」コースまたは「修了レポート」コースの別を教務課に届け出なければなりません。
- (2) 「修士論文指導」の履修
学生は、指導教授担当の「修士論文指導」を履修することとします。
- (3) 研究主題・指導教授の変更
特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、所定用紙（教務課備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。
- (4) 研究指導の教員
研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員を定めることがあります。

本課程の指導教授は次のとおりです。

「修士論文指導」及び「修了レポート指導」担当者

第1群 グローバル ゼーション 研究	荒井 真
	高雄 綾子
	高柳 彰夫
	春木 良且
	古内 洋平
	ベンヤミン D. ミドルトン
	和田 浩一

第2群 グローバル ゼーション と地域社会	上原 良子 (2016年度 特別研修)
	大野 英二郎
	木曾 順子
	金香 男
	田丸 理砂
	寺尾 隆吉
	中塚 次郎
	原口 尚彰
	福島 仁
	矢野 久美子
横山 正樹	

第3群 グローバル ゼーション と日本	大西 比呂志
	寛 雅博
	齊藤 直
	佐藤 輝
	常岡(乗本) せつ子
ヒガ, マルセーロ	

修士論文

下記の要件を満たした者に修士論文を提出する資格が認められます。

- (1) 在学期間
博士前期課程に1年以上在学すること。
- (2) 修得単位数等
修士論文を提出しようとする学期の前学期終了時まで、修了要件単位を20単位以上修得すること。

「修士論文題目届」の提出

修士論文を提出しようとする者は、所定の期日までに、指導教授の承認印を得た上で、修士論文題目届を提出しなければなりません。

期限	2016年11月11日(金)
場所	教務課(緑園)

「修士論文」の様式

次の基準に従って作成してください。

	様式等
書式	A4サイズ 40字×30行
教務課提出の1編1部	共通の様式に製本して保管するので表紙はつけず袋に入れて提出してください。
審査用の3部	所定の黒い表紙をつけて提出してください。

「修士論文」の提出

(1) 修士論文の提出

日時	2017年1月10日（火）～12日（木） 9:00～16:00 提出時間厳守
場所	教務課（緑園）
部数	1編1部

【提出上の注意】

- ① 本人が提出するものとし、所定の提出日時に遅れた場合は、理由のいかんを問わず一切受理されません。
- ② 郵送のものは受理されません。
- ③ 病気、その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は、学部の追試験許可理由（学生要覧参照）に準じて代理人提出が認められることがあるので、教務課まで連絡し、指示を受けてください。
- ④ 提出された論文は返却しません。
- ⑤ この他にも必要に応じて修士論文のコピーの提出を求めることがあります。詳細は各専攻の指示に従ってください。

修士論文の提出に関しては、上記のほかに、研究科において次のとおり定められています。この件についての詳細は、研究科の指示に従ってください。

(2) 審査用論文の提出

教務課提出用とは別に、国際交流学部共同研究室に審査用として3部（コピーも可）提出してください。なお、教務課提出の論文と審査用の論文の内容は同じものとし、手を加えてはなりません。

審査用の3部の提出日並びに提出場所

日時	2017年1月10日（火）～12日（木） 9:00～16:30 提出時間厳守
場所	国際交流学部共同研究室（緑園8号館1階）

※教務課の提出時間と異なるので注意してください。

学位論文審査基準（修士論文）

審査基準

- (1) 研究課題が明確かつ適切であること。
- (2) 精深な学識に基づき、先行研究を十分おさえ、論証に必要な情報収集が適切に行われていること。
- (3) 研究方法、つまり作品・資史料・データの解釈・分析・立論が適切に、一貫性をもって行われていること。
- (4) 論旨が明快かつ矛盾なく展開され、設定した課題に対する結論が明確に示されていること。
- (5) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表などの論文体裁が整っていること。
- (6) 上記の基準を満たした上で、それぞれの達成度によって成績評価が行われる。

審査体制

- (1) 審査委員は、主査1名、副査2名以上とする。
- (2) 審査委員による最終試験（口頭試問）を課す。
- (3) 審査の結果は、国際交流研究科委員会において審議し、修士の学位を授与することの可否を議決する。

修了レポート

修了レポート選択者は、次の2編のレポートを提出するものとします。

名称	内容等
修了レポート1 (経験と時代)	自己の社会体験 (職業、家庭、社会、地域、外国等) を整理し、それを時代、社会の中に位置づけて考察するものです。
修了レポート2 (テーマ研究)	通常の論文形式にのっとり、自分で設定したテーマについてまとめます。

修了レポート提出の時期

- ① 「修了レポート1 (経験と時代)」は、1年次から提出することができます。
- ② 本課程に1年以上 (長期履修学生については3年以上) 在学し、かつ「修了レポート2 (テーマ研究)」を提出しようとする学期の前学期終了時まで、修了要件単位を20単位以上修得した者は「修了レポート2 (テーマ研究)」を提出することができます。

「修了レポート題目届」の提出

修了レポートを提出しようとする者は、所定の期日までに、指導教授の承認印を得た上で、修了レポート題目届を提出しなければなりません。

期限	2016年11月11日 (金)
場所	教務課 (緑園)

「修了レポート」の様式

次の基準に従って作成してください。

	様式等
書式	A4サイズ 40字×30行
教務課提出の1編1部	共通の様式に製本して保管するので表紙はつけず袋に入れて提出してください。
審査用の2部	所定の黒い表紙をつけて提出してください。

「修了レポート」の提出

(1) 修了レポートの提出

日時	2017年1月10日 (火) ~12日 (木) 9:00~16:00 提出時間厳守
場所	教務課 (緑園)
部数	1編1部

【提出上の注意】

- ① 本人が提出するものとし、所定の提出日時に遅れた場合は、理由のいかんを問わず一切受理されません。
- ② 郵送のものは受理されません。
- ③ 病気、その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は、学部の追試験許可理由 (学生要覧参照) に準じて代理人提出が認められることがあるので、教務課まで連絡し、指示を受けてください。

- ④ 提出されたレポートは返却しません。
- ⑤ この他にも必要に応じてコピーの提出を求められることがあります。詳細は各専攻の指示に従ってください。

上記のほかに、研究科において次のとおり定められています。この件についての詳細は、研究科の指示に従ってください。

(2) 審査用レポートの提出

教務課提出用とは別に、国際交流学部共同研究室に審査用として2部（コピーも可）提出してください。
なお、教務課提出のレポートと審査用のレポートの内容は同じものとし、手を加えてはなりません。

審査用の2部の提出日並びに提出場所

日時	2017年1月10日（火）～12日（木） 9:00～16:30 提出時間厳守
場所	国際交流学部共同研究室（緑園8号館1階）

※教務課の提出時間と異なるので注意してください。

レポートの審査

終了レポートの審査は、主査1名及び副査1名以上により行われます。主査・副査は、国際交流研究科の研究科委員会において選任します。

最終試験

修士論文提出者

- (1) 修士論文を提出した者は、当該年度の所定期間に最終試験を受けるものとします。最終試験は口述試験とし、論文審査の主査・副査がこれに当たります。
- (2) 最終試験期日：2017年2月中旬（詳細は別途指示）
- (3) 試験を受ける者は、修士論文の要旨（4,000字程度）1部を、試験の前日までに指導教授に提出してください。

修了レポート2（テーマ研究）提出者

- (1) 「修了レポート2（テーマ研究）」を提出した者は、当該年度の所定期間に最終試験を受けるものとします。最終試験は口述試験とし、レポート審査の主査・副査がこれに当たります。
- (2) 最終試験期日：2017年2月中旬（詳細は別途指示）

「国際交流実務研修」

在学期間中に内外の国際機関、政府機関、公共機関、非政府組織（NGO / NPO）、企業等で活動し、その活動によって得た知見が、本研究科の教育・研究内容にふさわしいものであると認定された場合、その知見に対し単位を与える科目です。詳細は、シラバスを参照してください。

科目名称（単位数）	「国際交流実務研修」（2単位）
開講期	前期・後期
活動対象	① 3ヶ月以上、90時間以上であること。 ② 社会人院生が勤務先の職務に関して行う活動は対象としない。 ③ 有給（勤務・嘱託・アルバイト）は対象としない。

2016・2017年度開講予定表

種 別	授業科目名	履修年次	単位	担 当 者	2016		2017		備考
					前	後	前	後	
第1群 グローバリゼーションと現代社会と国際関係 グローバリゼーション研究 グローバリゼーションと社会運動	グローバリゼーション研究総論	12	2	古内洋平			○		
	現代社会論	12	2	B.Middleton		○			
	比較憲法論	12	2	常岡(乗本)せつ子			○		
	法秩序と現代社会	12	2	荒井真	○		○		
	情報技術と現代社会	12	2	春木良且	○		○		
	ジェンダー論	12	2	田丸理砂	○				☆
	国際政治論	12	2	古内洋平		○			
	国際機構論	12	2	高柳彰夫	○				
	国際人権論	12	2	(未定)					☆
	国際平和論	12	2	(未定)					☆
	国際政治経済論	12	2	(未定)					☆
	開発経済論	12	2	高柳彰夫			○		
	地球環境論	12	2	佐藤輝			○		
	環境と持続可能性	12	2	高雄綾子	○		○		
	市民運動・NGO・NPO	12	2	(未定)					☆
	国際スポーツ論	12	2	和田浩一		○		○	
	文明間対話の可能性	12	2	(未定)					☆
	キリスト教の現代的課題	12	2	原口尚彰		○			
	第2群 地域社会 グローバリゼーションと地域社会	地域社会研究総論	12	2	中塚次郎	○		○	
ヨーロッパ地域社会研究		12	2	上原良子			○		
北アメリカ地域社会研究		12	2	梅崎透		○		○	
ラテンアメリカ地域社会研究		12	2	ヒガ, マルセーロ		○		○	
アジア地域社会研究		12	2	(未定)					☆
南アジア地域社会研究		12	2	木曾順子		○	○		
ヨーロッパ社会とキリスト教		12	2	原口尚彰				○	
開発と地域社会		12	2	横山正樹	○				☆
家族と地域社会		12	2	金香男		○		○	
ヨーロッパ文化論		12	2	大野英二郎	○		○		
ラテンアメリカ文化論		12	2	寺尾隆吉	○		○		
アジア文化論		12	2	福島仁	○		○		
ヨーロッパ現代思想		12	2	矢野久美子	○		○		
ヨーロッパの文化表象		12	2	(未定)					
ヨーロッパの文化とジェンダー	12	2	田丸理砂				○		
アジアの文化とジェンダー	12	2	(未定)						
第3群 グローバリゼーションと日本の社会問題	日本近現代史研究総論	12	2	大西比呂志	○		○		
	日本歴史文化論	12	2	寛雅博		○		○	
	日中関係の歴史と現在	12	2	(未定)					☆
	日朝関係の歴史と現在	12	2	(未定)					☆
	欧米の社会科学と日本の社会科学	12	2	B.Middleton				○	
	日本の近代と横浜	12	2	大西比呂志		○		○	
	国際交流特殊研究	12	2	非常勤教員					
	国際交流特殊研究	12	2	非常勤教員					
	国際交流特殊研究	12	2	非常勤教員					
	世界の中の日本国憲法	12	2	常岡(乗本)せつ子	○				
	日本社会とジェンダー	12	2	(未定)					☆
	日本社会と移民	12	2	ヒガ, マルセーロ				○	
	日本の環境問題	12	2	佐藤輝		○			
	キリスト教と日本社会	12	2	(未定)					☆
日本経済の歴史と現在	12	2	齊藤直	○		○			

【備考欄】 ☆：2017年度以降担当者未定
 ○：夜間開講科目

種 別	授業科目名	履修 年次	単 位	担 当 者	2016		2017		備 考
					前	後	前	後	
	文献講読	12	2	中塚次郎					
	言語演習	12	2	大野英二郎			○		
		12	2	(未定)					
		12	2	福島仁			○		
		12	2	(未定)					
		12	2	非常勤教員					☆
	国際交流実務研修	12	2	(未定)	○	○	○	○	
	自分史の書き方・時代の見方	12	2	大野英二郎	○		○		
	修士論文指導・修了レポート指導	12	2	古内洋平	○	○	○	○	
		12	2	横山正樹	○	○			☆
		12	2	高柳彰夫	○	○	○	○	
		12	2	ヒガ, マルセーロ	○	○	○	○	
		12	2	春木良且	○	○	○	○	
		12	2	福島仁	○	○	○	○	
		12	2	上原良子	○	○	○	○	
		12	2	荒井真	○	○	○	○	
		12	2	笈雅博	○	○	○	○	
		12	2	大野英二郎	○	○	○	○	
		12	2	中塚次郎	○	○	○	○	
		12	2	寺尾隆吉	○	○	○	○	
		12	2	木曾順子	○	○	○	○	
		12	2	和田浩一	○	○	○	○	
		12	2	齊藤直	○	○	○	○	
		12	2	矢野久美子	○	○	○	○	
		12	2	常岡(乗本)せつ子	○	○	○	○	
		12	2	田丸理砂	○	○	○	○	
		12	2	佐藤輝	○	○	○	○	
		12	2	B.Middleton	○	○	○	○	
		12	2	大西比呂志	○	○	○	○	
		12	2	金香男	○	○	○	○	
		12	2	原口尚彰	○	○	○	○	
12	2	高雄綾子	○	○	○	○			

【備考欄】：☆=2017年度以降担当者未定

○：夜間開講科目

国際交流研究科 博士後期課程

修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)全てを満たす必要があります。

- (1) 在学期間
大学院に5年以上 * 在学すること。
*修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者については、その2年を含む。
- (2) 修得単位数等
 - ① 「博士論文指導」を含む所定の授業科目を38単位 ** 以上修得すること。
 - ② 博士の学位申請論文の審査及び最終試験に合格すること。
**修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者が、当該課程と同種の専攻の博士後期課程に入学した場合は、その専攻の授業科目のうち30単位をすでに修得したものとみなします。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に3年（修士課程又は博士前期課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りることとします。

また、(2)については次のとおり定めます。

科目区分	必修単位数
指導教授の「特別研究」科目	2単位
指導教授又は指導教員が担当する「博士論文指導」	4単位
その他の授業科目	2単位
合 計	8単位

履修方法

所定の授業科目の履修方法

「特別研究」及び「博士論文指導」から履修することとします。
詳細は開講科目表の履修方法欄を参照してください。
各学期の履修科目については、履修登録までに指導教授の承認を得てください。

「博士論文指導」の履修

- (1) 履修時期
履修登録は、原則として修了予定年度（3年次）の前期に行い、前期→後期の順に履修してください。
休学・留学により既定された履修年次・学期に履修することができない場合は、年度を超えて履修することが認められます。該当者は、教務責任者の指示を受けてください。
後期・前期派遣の特別聴講学生が年度を超えて履修する場合は、前期に履修登録してください。

- (2) 修了要件への算入
「博士論文指導」の重複履修はできません。
履修登録は1人の学生が1回のみ行ってください。

指導教授・研究主題

各専攻の「博士論文指導」担当者が指導教授となります。
指導教授は、博士の学位申請論文の作成等に対する指導（研究指導）を行います。

- (1) 手続き
学生は、入学後最初の履修登録時に、指導教授の承認を得た上で、所定用紙（「研究主題・指導教授届」）によって、指導教授名及び研究主題を教務課に届け出なければなりません。
- (2) 「博士論文指導」の履修
学生は、指導教授担当の「博士論文指導」を履修することとします。
- (3) 研究主題・指導教授の変更
特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、所定用紙（教務課備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。
- (4) 研究指導の教員
研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員（指導教員）を定めることがあります。

「博士論文指導」担当者

博士後期課程 指導教授	荒井 真
	上原 良子 (2016年度 特別研修)
	大西 比呂志
	大野 英二郎
	笥 雅博
	木曾 順子
	高柳 彰夫
	田丸 理砂

博士後期課程 指導教授	常岡（乗本）せつ子
	中塚 次郎
	原口 尚彰
	春木 良且
	ヒガ, マルセーロ
	矢野 久美子
	横山 正樹

試験・成績

試験及び成績の評価については、博士前期課程に準じます。

研究計画・研究報告

博士後期課程の学生は、毎年度、年度初めの所定の期日までに「研究計画書」（教務課備付）を提出しなければなりません。

また、年度末の所定の期日までに「研究報告書」を提出しなければなりません。

(1) 「研究計画書」の提出

期限	2016年4月20日（水）まで
場所	教務課（緑園）

(2) 「研究報告書」の提出

期限	2017年1月20日（金）まで
提出先	各自の指導教授
書式	研究科が指定。なお、学術雑誌などに発表した論文の抜刷を、研究報告書に代えることができます。

博士の学位申請論文

提出資格

下記の要件を満たした者は、博士後期課程修了予定年次に博士の学位申請論文を提出することができます。

(1) 在学期間

大学院に4年 * 以上在学すること。

*修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者については、その2年を含む。

(2) 修得単位数等

「博士論文指導」を含む修了要件単位を38単位以上修得すること（又は修了見込みであること）。

その他、退学後の提出及び博士課程を経ない者の提出については、次頁を参照してください。

提出の手続き

(1) 上記の資格を満たす場合の提出

上記の資格を満たし、博士の学位申請論文を提出しようとする者は、提出を希望する年度の4月*に、当該年度の「研究計画書」のほかに、次頁のとおり所定の「博士学位申請論文計画書」等の書類を提出しなければなりません。

国際交流研究科委員会において、「計画書」が受理された場合のみ、論文を提出することができます。この場合、論文提出日は10月*とします。

*「計画書」等及び論文の提出期限は、次頁のとおりです。

(2) 退学後の提出

① 退学後3年以内

博士課程において5年以上在学し、修了要件単位を38単位以上修得して退学した者が、退学後3年以内に博士の学位申請論文を提出する場合には(1)と同じ手続きが必要です。

② 退学後3年超

本学の大学院博士課程に5年以上在学し、修了要件単位を38単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けて退学した者が、退学後3年を超えて博士の学位申請論文を提出する場合には、本学学位規則第13条(博士課程を経ない者の博士の学位申請論文の提出及び博士論文審査手数料)の規定するところにより博士学位申請論文を提出することができます。

(3) 博士課程を経ない者の提出

本学の大学院博士課程に在籍したことのない者は、本学学位規則第13条(博士課程を経ない者の博士の学位申請論文の提出及び博士論文審査手数料)の規定するところにより博士学位申請論文を提出することができます。

(2)の②、(3)により博士の学位申請論文を提出しようとする者は、4月*に博士学位申請論文及び関係書類を提出する必要があります。予備論文の提出は必要ありません。本学学位規則を参照の上で事前に教務課に相談してください。

*「計画書」等及び論文の提出期限は、次頁のとおりです。

(4) 審査手数料

博士学位の申請を行う者は、「大学院博士学位申請論文等の審査手数料に関する内規」に基づき、次のとおり審査手数料を納付する必要があります。

	予備論文審査料	博士学位申請論文審査料
課程による博士学位申請		
(1) 申請時に在籍している者	無料	無料
(2) 申請時、退学後3年以内の者	20,000円	100,000円
(3) 申請時、退学後3年を超える者		150,000円
課程によらない博士学位申請		200,000円

「博士の学位申請論文」の提出

博士の学位申請論文（「本論文」）提出にあたっては、次の手順で予め「予備論文」の審査を受け、合格する必要があります。

(1) 「博士学位申請論文計画書」の提出

博士の学位申請論文を提出しようとする者は、「博士学位申請論文計画書」提出時に、次の書類等（①～④）を提出しなければなりません。

	名 称	様式等
①	「博士学位申請論文計画書」	本学所定
②	「予備論文」*	和文 400字詰 50枚程度 4部 欧文 A4サイズ ダブルスペース 25枚程度 4部 その他の言語 上記に準ずる分量
③	「履歴書」	本学所定 4通
④	「業績書」	本学所定 4通

期限	2016年4月20日（水）まで
場所	教務課（緑園）

「予備論文」の審査に合格した者は、その後の在籍状態にかかわらず翌年度に限り必ずしも②「予備論文」の提出を要しませんが、①、③および④については提出が必要です。

* 予備論文と予備審査

「学位申請論文」を「本論文」と呼ぶことがあるのに対し、予備審査のための論文を「予備論文」と言います。予備審査とは、学位申請論文が審査に相当する基準に到達しているかどうかを予め判定するために行います。

(2) 「博士の学位申請論文」*（本論文）の提出

博士の学位の申請者は、学位申請論文提出時に、次の書類等を提出しなければなりません。

課程による者（課程博士）

	名 称	様式等
①	博士学位申請書	本学所定
②	博士学位申請論文	1編4部
③	論文要旨	4部
④	論文目録	本学所定 4通
⑤	履歴書・業績書	本学所定 4通

【博士の学位申請論文の枚数】

和文	400字詰	300枚以上
英文	A4サイズ ダブルスペース	150枚以上
その他の言語	上記に準ずる分量	

*作成様式等詳細については、別に定めます。

日時	2016年10月24日（月）～28日（金） 9:00～16:00 提出時間厳守
場所	教務課（緑園）

【提出上の注意】

- ① 博士の学位申請論文は、本人が提出するものとし、所定の提出日時に遅れた場合は、理由のいかんを問わず一切受理されません。
- ② 郵送のものは受理されません。
- ③ 病気、その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は、学部の追試験許可理由（学生要覧参照）に準じて代理人提出が認められることがあるので、教務課まで連絡し、指示を受けてください。
- ④ この他にも必要に応じて博士の学位申請論文のコピーの提出を求めることがあります。詳細は各専攻の指示に従ってください。

学位論文審査基準（博士論文）

審査基準

- (1) 研究課題が明確かつ適切で、さらに独創性があること。
- (2) 先行研究を十分おさえ、論証に必要な情報収集が適切に、かつ自主的に行われていること。
- (3) 研究方法、つまり作品・資史料・データの解釈・分析・立論が適切に、一貫性をもって行われていること。
- (4) 論旨が明快かつ矛盾なく展開され、設定した課題に対する結論が明確に示され、その結論が独創的であること。
- (5) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表などの論文体裁が整っていること。
- (6) 上記の基準を満たした上で、当該学問分野において、研究を進展させる学問的価値があること、豊かな学識を有し、自立して研究活動を行うことができ、専門的な業務に従事するに必要な能力を示すものであること。

審査体制

- (1) 審査委員は、主査1名、副査2名以上とする。なお、副査のうち、1名は学外者とする。
- (2) 審査委員による最終試験（口頭試問）を課す。
- (3) 審査の結果は、国際交流研究科委員会において審議し、博士の学位を授与することの可否を議決する。

最終試験

博士の学位申請論文を提出した者は、当該年度の所定期間に最終試験を受けるものとします。最終試験は、筆記又は口頭によって行います。

【最終試験期間】2017年2月（詳細は研究科からの指示によるものとする）

修了者発表

次の日時に掲示によって発表します。

【修了者発表】

日時	2017年2月24日（金） 夕方
場所	緑園校舎・山手校舎・FerrisPassport

博士の学位申請論文の撤回

博士の学位申請論文の提出後、撤回を希望する場合、最終試験実施日から7日後まで、申し出ることができます。撤回の必要がある場合は、指導教授又は教務課に相談してください。

音楽研究科

修士課程

音楽研究科

音楽研究科の人材養成目的

西洋音楽の根幹であるキリスト教音楽を基盤として、音楽の領域に関する理論及び実践を教授研究し、高度に専門的な知識・能力・技術を持ち、かつ音楽界を多様に支える素養を兼ね備えた職業人を養成する。

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

修士課程

◆ディプロマ・ポリシー

音楽の領域において、卓越した演奏家・音楽文化人としての高度な専門性を身に付け、社会のニーズにあった音楽活動をするのみならず、社会にインパクトを与え、社会人・職業人として芸術に理解ある社会の創造に貢献できる能力をもつ者に「修士（音楽）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

音楽の領域において、音楽芸術・文化の分野におけるさらに高度な知識、理論や能力を身につけるとともに、自らの個性をあますところなく発揮するための表現技術を修得させ、それらを女性の視点から現実生かして社会で活動するための高度な実践的能力を養う。

カリキュラムの説明

音楽研究科 音楽芸術専攻

音楽芸術専攻では西洋音楽を中心とした理論と実践を通し、高度な知識を背景とした研究能力を身につけ、音楽を専門とする今日的な職業に携わる人材を養成する事を目的としている。

1999年に音楽研究科創作表現専攻として開設され、音楽学部楽理学科の2つの柱である作曲と音楽学を受け継ぎながら、より高度な創作表現を中心課題とし、音楽理論研究（和声、対位法、作品分析、管弦楽法）、音楽学研究を基盤に日本歌曲、合唱曲、オルガン曲、室内楽曲、新しいキリスト教作品等の創作を試みると共に、作品を生み出す背景研究を行なっている。2004年には名称を創作表現専攻から音楽芸術専攻とし、学部と大学院のプログラムを直結することにより、両方のカリキュラムのさらなる連携をはかっている。

音楽芸術専攻では作曲、音楽文化、応用音楽学、音楽コミュニケーション、音楽情報論、音楽人間環境科学、音楽教育、先端メディアなどの科目を設置している。具体的には、専任教員それぞれの専門性においてクラシックからポピュラー音楽までの幅広い作曲技法とオーケストレーションの基礎の修得、コンピュータを用いた音楽・映像・メディアアート作品などの制作、現代社会の音環境が抱える問題を解き明かし、より良いものにするための音響学や音環境デザインの研究、ポピュラー音楽の理論や歴史の研究、音楽学の基本概念の修得や学術的思考、それにふさわしい発想や文章の構築、ピアノ伴奏や室内楽の共演の楽曲レパートリー研究と演奏技術及び表現力の向上をめざす共演芸術研究、舞台作品を題材に発声法・ピアノ伴奏・指揮法などの修得を通しての舞台制作研究など、多様な音楽に関する講義・演習が体系的に構成している。これらによって学生は広範な知識と好奇心、論理的思考を学び、音楽研究の諸領域を追求し、さらに専任教員の指導のもと修士研究を行い、研究成果の発信を通して社会に貢献することが期待される。

音楽研究科 演奏専攻

演奏専攻では演奏家をめざし、学士を取得している者により高度な専門技術研鑽の課程を設け、演奏技術と表現の向上によって国際的にも通用する人材を育成することを目的としている。各専攻分野において、国内のみならず、国際社会を見据えた教育を提供できるよう、技術、表現の研鑽が狭義に陥らないようカリキュラムが配置されている。特に専攻個人レッスンにおいては学生が研究課題に応じて自由に担当教員を選択指名することができ、また必要に応じて複数教員よりレッスンを履修することが可能となっている。また音楽研究科がこれを認めた場合他専攻の個人レッスンも履修できるよう配慮されている。画一的師弟制度の短所を打破した画期的なシステムとなっている。

修了要件として、修了演奏及び演奏に則した修士副論文を課している。演奏される曲目につき作品の成立背景にあるさまざまな題材をどのように解釈したかをテーマとした副論文を記すことで技術のみに秀でた演奏家でなく、技術、理論双方を習得したより高度な演奏のできる人材を育成することが可能である。

海外より招聘した客員教授による専攻実技レッスン及びアンサンブル指導、著名演奏家による特別公開講座は演奏の国際性を育み、さらに留学を希望する学生にはブレーメン芸術大学等への派遣の機会も用意されている。本学が保持するパリ芸術都市での短期、長期の研鑽の機会が国際的演奏家の育成のための、重要な実践の場となっている。

音楽研究科 修士課程

修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)全てを満たす必要があります。

- (1) 在学期間
2年以上在学すること。
- (2) 修得単位数等
 - ① 「修士研究指導」を含む所定の授業科目を30単位以上修得すること。
 - ② 音楽芸術専攻においては修士研究（修士制作及び修士副論文、又は修士論文）の提出、演奏専攻においては修士副論文の提出及び修士学位審査演奏会（修士演奏）に出演し、その審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りることとします。

また、必修単位数については次のとおり定めます。

音楽芸術専攻

科目区分	単位数	備考
選択必修Ⅰ群	4単位以上	
選択必修Ⅱ群	4単位以上	
選択必修Ⅲ群 「修士研究指導」	4単位	
その他	18単位	① 必修、選択必修として規定された以上に選択した科目、研究委員会の承認を経て修了要件への算入が認められた他大学院等で修得した単位を含みます。 ② 「実技レッスン A,B」「特別実技レッスン A,B」をあわせて6単位まで修了要件に算入可。
合計	30単位	

演奏専攻

科目区分	単位数	備 考
選択必修Ⅰ群	4単位以上	
選択必修Ⅱ群	4単位以上	
選択必修Ⅲ群 「修士研究指導」	4単位	
その他	18単位	① 必修、選択必修として規定された以上に選択した科目、研究委員会の承認を経て修了要件への算入が認められた他大学院等で修得した単位を含みます。 ② 「実技レッスン A,B」「特別実技レッスン A,B」をあわせて9単位まで修了要件に算入可。
合 計	30単位	

履修方法

各専攻所定の授業科目の履修方法

選択必修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲから履修することとします。

詳細は開講科目表の「履修方法」欄を参照してください。

各学期の履修科目については、履修登録日までに指導教授の承認を得てください。

他専攻、他研究科、学部の授業科目の履修

他専攻、他研究科、学部の授業科目の履修及び手続き方法については、p.21を参照してください。

同一授業科目の重複履修

(1) 同一担当者による同一授業科目（レッスン科目を除く）

同一担当者による同一授業科目（レッスン科目を除く）を、年度を変えて重複履修することを希望する者は、指導教授の承認を得た後、所定用紙（教務課、山手事務室備付）により開講学期の履修登録期間最終日までに教務課に届け出るものとします。ただし、開講科目表の網かけのある科目については、承認を必要としません。

(2) 担当者が異なる場合の重複履修

同一授業科目で、年度によって担当者が異なる場合は、重複履修することができます。

(3) 修了要件への算入

上記(1)、(2)の場合、修了要件としては認められません。

「修士研究指導」の履修

(1) 履修時期及び必修単位数

修了年次の前期と後期に、それぞれ2単位ずつ履修してください。

休学・留学等により、このとおりに履修できない場合は、教務責任者の指示を受けてください。

(2) 修了要件への算入

修了要件に算入できるのは、4単位までです。

選択 PA 科目

選択 PA (Performing Arts) 科目は、個人指導科目であり、演奏専攻カリキュラムの選択必修 I 群、選択必修 II 群、選択必修 III 群における教育を補完するレッスン科目です。「特別実技レッスン A,B」では、本学教員及び海外アーティスト等学外の講師による短期集中レッスンなども設定されています。

なお、研究主題に関連することであれば、自身の専攻楽器とは異なる専門の教員の指導も受けることができます。ただし、その場合には、研究科の承認を得るものとします。

1年次後期以降の履修申込み方法については、掲示で周知します。

科目名	実技レッスン A, B	特別実技レッスン A, B
時間数	週45分×15回	週15分×15回
単 位	各3単位	各1単位
実技料	1学期1科目につき150,000円 (1年次前・後期、2年次前期の授業料には、 1科目分の実技料が含まれる。) ※	1学期1科目につき50,000円
履修できる 楽器等	声楽、ピアノ、オルガン、チェンバロ、クラヴィコード、鍵盤楽器伴奏法、ヴァイオリン (時代楽器奏法を含む)、ヴィオラ、チェロ、フルート、背景研究・論文作成、作曲、メディア・アート	
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要手続科目 ・ 他専攻への開放科目 ・ 重複履修可能 ・ 演奏専攻では9単位、音楽芸術専攻では6単位まで修了要件に算入可 ・ 24単位の上限を超えて PA 科目の履修を希望する場合、専攻主任の承認が必要となります。 	

※履修を希望しない場合は、期日までに所定の手続きを行ってください。基本授業料に含まれる選択 PA科目実技料が返金されます。なお、手続きの詳細については履修申込み方法と合わせてお知らせします。

選択 PA 科目 2016年度担当者

楽器等	担 当 者
声楽	蔵田雅之、土屋広次郎、星野聡 (2016年度特別研修)、太田朋子、菅有実子、栗林朋子、坂本貴輝、田中奈美子、辻裕久、西由起子、牧野真由美、宮部小牧
ピアノ	落合敦、黒川浩、堀由紀子、立神粧子、磯崎淳子、大瀧郁彦、川井綾子、北原葉子、橘高昌男、児玉恵子、小林周子、小林秀子、下田幸二、田口純子、田村安佐子、中野真帆子、畠山さち子、林今日子、前田美由紀、松浦 健
オルガン・クラヴィコード・チェンバロ	宮本とも子 (Or, Clavichord)、宇内千晴 (Or)、早島万紀子 (Or, Cembalo)、三浦はつみ (Or)、桐山建志 (鍵盤楽器伴奏法)
管楽器	井出朋子 (Fl)、遠藤剛史 (Fl)、細川順三 (Fl)
弦楽器	戸田弥生 (Vn)、千葉純子 (Vn)、中村静香 (Vn)、渡部基一 (Vn)、篠崎友美 (Va)、井上雅代 (Vc)、藤村俊介 (Vc)、渡部玄一 (Vc)、桐山建志 (Vn: 時代楽器奏法)
背景研究・論文作成	谷口昭弘
作曲	たかの舞例
メディア・アート	瀬藤康嗣

指導教授

各専攻の「修士研究指導」担当者が指導教授となります。

指導教授は、音楽芸術専攻においては修士研究（修士制作及び修士副論文、又は修士論文）、演奏専攻においては修士演奏および修士副論文に関する指導を行います。

(1) 手続き

学生は、入学後最初の履修登録時に、指導教授の承認を得た上で、所定用紙（「研究主題・指導教授届」）によって、指導教授名及び研究主題を教務課に届け出なければなりません。

(2) 履修方法

学生は、指導教授担当の「修士研究指導」を履修することとします。

(3) 研究主題・指導教授の変更

特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、所定用紙（教務課、山手事務室備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。

(4) 研究指導の教員

研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員を定めることがあります。

「修士研究指導」担当者

音楽芸術専攻	たかの 舞 俐
	立 神 粧 子
	星 野 聡 (2016年度 特別研修)

演奏専攻	落 合 敦
	蔵 田 雅 之
	黒 川 浩
	戸 田 弥 生
	堀 由紀子
宮 本 とも子	

修士研究・修士副論文の提出

提出資格

下記の要件を満たした者に、修士研究・修士副論文を提出する資格が認められます。

(1) 在学期間

修士課程に1年以上在学すること。

(2) 修得単位数等

音楽芸術専攻の修士研究（修士制作及び修士副論文、又は修士論文）、演奏専攻の修士副論文（以下、「修士研究・修士副論文」という。）を提出しようとする学期の前学期修了時まで、修了要件単位を20単位以上修得すること。

「修士研究・修士副論文題目届」の提出

修士研究・修士副論文を提出しようとする者は、次の期日までに、指導教授・指導の教員の承認印を得た上で、題目届を教務課に提出しなければなりません。

なお、音楽芸術専攻生のうち、修士制作を選択する者は、修士制作、修士副論文それぞれの題目届を提出しなければなりません。

期限	音楽芸術専攻	2016年10月14日（金）
	演奏専攻	
場所	山手事務室	

修士研究・修士副論文の提出

日時	音楽芸術専攻	2016年12月7日（水）～12月9日（金）9:00～16:00 提出時間厳守
	演奏専攻	
場所	山手事務室	
部数	正本1部	

論文等の作成要領については、各専攻が別に定めます。

【提出上の注意】

- ① 修士研究・修士副論文は、本人が提出するものとし、所定の提出日時に遅れた場合は、理由のいかんを問わず一切受理されません。
- ② 郵送のものは受理されません。
- ③ 病気、その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は、学部の追試験許可理由（学生要覧参照）に準じて代理人提出が認められることがあるので、教務課まで連絡し、指示を受けてください。
- ④ 提出された論文は返却しません。
- ⑤ この他にも必要に応じて修士論文のコピーの提出を求めることがあります。詳細は各専攻の指示に従ってください。

審査用論文等の提出

山手事務室提出用とは別に、審査用論文等として次のとおり提出してください。なお、山手事務室提出用と審査用論文等は同じものとし、手を加えてはなりません。この件についての詳細は、各専攻の指示に従ってください。

【審査用の論文等の提出】

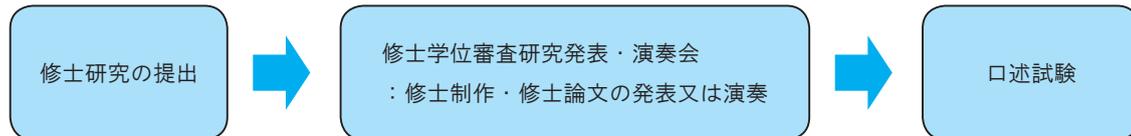
音楽芸術専攻 演奏専攻	提出物	電子データ
	日時	2016年12月7日（水）～12月9日（金）9:00～16:30 提出時間厳守
	提出先・提出方法等	各専攻の指示に従ってください。

修士学位審査研究発表・演奏会、最終試験

(1) 最終試験までの流れ

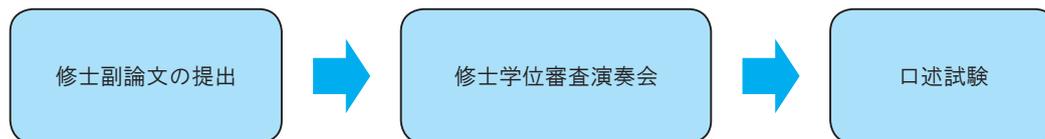
音楽芸術専攻

修士研究を提出した者は、当該年度の所定期間に、最終試験を受けるものとします。最終試験は、研究発表及び口述試験によって行います。



演奏専攻

修士副論文を提出した者は、当該年度の所定期間に、最終試験を受けるものとします。最終試験は、修士演奏及び口述試験によって行います。



【日程】

修士学位審査研究発表・演奏会	2017年2月6日（月）～2月8日（水）
口述試験	2017年2月上旬～中旬（詳細は専攻の指示による）

【9月修了者の日程】

2015年9月修了を希望する者の「修士学位審査研究発表・演奏会」は、前期実技試験期間中に実施します。

修士学位審査研究発表・演奏会	2016年7月29日（金）・7月30日（土）・8月1日（月）
口述試験	2016年7月下旬～8月初旬（詳細は専攻の指示による）

(2) 欠席・遅刻の扱い

修士学位審査研究発表・演奏会当日に欠席又は遅刻した場合の扱いは、追試験の規定に準じます。発表演奏日は別に設けます。

学位論文審査基準（修士論文）

音楽芸術専攻では修士研究として修士制作及び修士副論文、又は修士論文のいずれかを選択し提出した上で修士学位研究発表を行う。演奏専攻の場合は修士副論文の提出及び修士学位審査演奏会に出演する。いずれの専攻の場合も、学位申請者が提出した修士論文、または修士副論文を、主査1名、副査2名が審査を行うが、その審査基準は以下のとおりである。

1. 修士論文（音楽芸術専攻）

- (1) 研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
- (2) 当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。
- (3) データ、資料、作品、例文や、それらの処理・分析・解釈の仕方など、研究の目的を達成するためにとられた方法が、適切かつ主体的に行われていること。先行研究を踏まえた発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
- (4) 全体の構成を含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
- (5) 論理に飛躍がなく着実に結論に結びつくよう展開されていること。
- (6) 文章が学術論文にふさわしい確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っていること。
- (7) 上記の基準を満たした上で、当該学問分野における研究を発展させるに足る知見が見いだせること。また、その点に基づいて申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められること。
- (8) 研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。また、学内の倫理規定や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守していること。

2. 修士副論文（音楽芸術専攻、演奏専攻）

修士副論文は修士制作（音楽芸術専攻）、修士演奏（演奏専攻）と関連した分野、あるいは独立した別の主題を選択することが出来る。

- (1) 研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
- (2) 当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。
- (3) データ、資料、作品、例文や、それらの処理・分析・解釈の仕方など、研究の目的を達成するためにとられた方法が、適切かつ主体的に行われていること。先行研究を踏まえた発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
- (4) 全体の構成を含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
- (5) 論理に飛躍がなく着実に結論に結びつくよう展開されていること。
- (6) 適切な文章表現による論述が行われており全体的によくまとまっていること。
- (7) 上記の基準を満たした上で、修士制作または修士演奏の質を向上・発展させる知見が見いだせること。また、当該分野において申請者が近い将来、自立した表現者として活躍していく能力および可能性が認められること。
- (8) 研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。また、学内の倫理規定や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守していること。

修士制作及び修士演奏審査基準

音楽芸術専攻の修士制作、演奏専攻の修士学位審査演奏会に関する審査基準は、それぞれ以下のとおりである。

1. 修士制作（音楽芸術専攻）

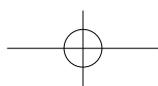
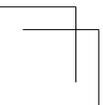
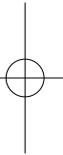
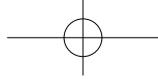
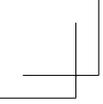
作品、演奏、企画制作等による表現形態をとり、以下のすべて、又はいずれかを含むこととする。

- (1) 独創性及び独自性を追求し、作品、演奏、または企画制作として具現化している。
- (2) 高度な技法を用い、高い芸術性を有する。
- (3) 社会的意義を有する。

2. 修士演奏（演奏専攻）

近い将来、楽壇で活躍するに足る演奏能力を有しているかを評価基準と定め、以下の項目を設定している。
(修士演奏は修士副論文の内容に沿ったプログラム作成が望ましい。)

- (1) 高度な演奏技術を保持し、長時間の演奏中、集中力、耐久力とともに、それをコントロールできるか。
- (2) 演奏作品の時代、様式を明確に把握し、かつオリジナリティーのある豊かな演奏表現能力を持っているか。
- (3) 芸術表現上、整合性のあるプログラミングがなされているか。
- (4) 上記(1)～(3)のうえに立って聴衆を魅了できる演奏ができているか。



大学院開講科目表

大学院開講科目表

この情報は、2016年3月5日現在の情報をもとに作成しています。
最新情報は、Web シラバスで確認してください。

英文学専攻（博士前期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
				前	後						
選択必修Ⅰ	91010	イギリス文学研究1A	イギリス小説論を読む1	2		向井 秀忠	12	金2	R		I群から4単位以上を修得
	91020	イギリス文学研究1B	イギリス小説論を読む2	2		向井 秀忠	12	金2	R	④	
	91030	イギリス文学研究2A	イギリス・ルネサンス演劇演習A	2		由井 哲哉	12	水2	R		
	91040	イギリス文学研究2B	ルネサンス演劇研究	2		由井 哲哉	12	水2	R		
	91050	イギリス文学研究3A		2		(休 講)	12				
	91060	イギリス文学研究3B		2		(休 講)	12				
	91070	イギリス文化研究1A		2		(休 講)	12				
	91080	イギリス文化研究1B		2		(休 講)	12				
	91090	イギリス文化研究2A	イギリス芸術文化史研究A	2		近藤 存志	12	火4	R		
	91100	イギリス文化研究2B	イギリス芸術文化史研究B	2		近藤 存志	12	火3	R	④	
	91110	イギリス文化研究3A	西洋のファンタジー児童文学を読み解くA	2		藤本 朝巳	12	火2	R		
	91120	イギリス文化研究3B	西洋のファンタジー児童文学を読み解くB	2		藤本 朝巳	12	火3	R		
	91130	イギリス社会研究A		2		(休 講)	12				
	91140	イギリス社会研究B		2		(休 講)	12				
	91150	アメリカ文学研究1A		2		(休 講)	12				
	91160	アメリカ文学研究1B		2		(休 講)	12				
	91170	アメリカ文学研究2A	アメリカ詩を読み解く： エミリー・ディキンソン（1）	2		渡辺 信二	12	水2	R	④	
	91180	アメリカ文学研究2B	アメリカ詩を読み解く： エミリー・ディキンソン（2）	2		渡辺 信二	12	水2	R		
	91190	アメリカ文化研究1A		2		(休 講)	12				
	91200	アメリカ文化研究1B		2		(休 講)	12				
	91210	アメリカ文化研究2A	アメリカ映画文化研究1	2		福永 保代	12	木2	R		
	91220	アメリカ文化研究2B	アメリカ映画文化研究2	2		福永 保代	12	水2	R		
	91230	アメリカ社会研究1A	人種・民族・移民の歴史から考えるアメリカA	2		中川 正紀	12	木5	R		
	91240	アメリカ社会研究1B	人種・民族・移民の歴史から考えるアメリカB	2		中川 正紀	12	木5	R		
	91250	アメリカ社会研究2A		2		(休 講)	12				
	91260	アメリカ社会研究2B		2		(休 講)	12				
	91270	日英比較文学研究A		2		(休 講)	12				
	91280	日英比較文学研究B		2		(休 講)	12				
	91290	英語学研究1A		2		(休 講)	12				
	91300	英語学研究1B		2		(休 講)	12				
	91310	英語学研究2A	支援談話と言語分析1	2		鏡平名 尚子	12	木1	R	①	
	91320	英語学研究2B	支援談話と言語分析2	2		鏡平名 尚子	12	木1	R		
	91330	英語学研究3A	第二言語習得研究1 効果的な英語学習・教育への示唆	2		大畑 甲太	12	金5	R	④	
91340	英語学研究3B	第二言語習得研究2 効果的な英語学習・教育への示唆	2		大畑 甲太	12	金5	R			
91350	翻訳論研究A		2		(休 講)	12					
91360	翻訳論研究B		2		(休 講)	12					
91370	イギリス文学演習1A	イギリス詩A	2		富樫 剛	12	月2	R	④		
91380	イギリス文学演習1B	イギリス詩B	2		富樫 剛	12	月5	R			
91390	イギリス文学演習2A		2		(休 講)	12					
91400	イギリス文学演習2B		2		(休 講)	12					
91410	イギリス文化演習1A	イギリスのナショナル・アイデンティティの文化史	2		丹治 愛	12	火3	R			
91420	イギリス文化演習1B	イギリスのナショナル・アイデンティティの文化史	2		丹治 愛	12	火3	R			
91430	イギリス文化演習2A		2		(休 講)	12					
91440	イギリス文化演習2B		2		(休 講)	12					
91450	アメリカ文学演習A	20世紀アメリカ小説	2		丹治 陽子	12	火4	R			
91460	アメリカ文学演習B	20世紀アメリカ小説	2		丹治 陽子	12	火4	R			
91470	アメリカ文化演習A	アメリカ文化史・知識人史演習A	2		梅崎 透	12	木5	R			
91480	アメリカ文化演習B	アメリカ文化史・知識人史演習B	2		梅崎 透	12	水1	R	② ④		
91490	アメリカ社会演習A		2		(休 講)	12					
91500	アメリカ社会演習B		2		(休 講)	12					
91510	比較文学演習A		2		(休 講)	12					
91520	比較文学演習B		2		(休 講)	12					
91530	翻訳演習A		2		(休 講)	12					
91540	翻訳演習B		2		(休 講)	12					
91550	英語学演習1A		2		(休 講)	12					
91560	英語学演習1B		2		(休 講)	12					
91570	英語学演習2A		2		(休 講)	12					
91580	英語学演習2B		2		(休 講)	12					
91590	英語論文演習A		2		マーティン, ロジャー	12	火5	R	⑤		
91600	英語論文演習B		2		マーティン, ロジャー	12	火5	R			
選択必修Ⅱ											II群から8単位以上を修得

【備考欄】 ①=英文学専攻・コミュニケーション学専攻複式開講科目 ②=英文学専攻・コミュニケーション学専攻・国際交流専攻複式開講
③=国際交流研究科・人文科学研究科複式開講 ④=MD複式開講（人文・2016） ⑤=英語による授業

英文学専攻（博士前期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
				前	後						
選択	91610	比較文学研究A	短編小説の形式を、英米、日本を含め多くの国に探る	2		マーク バイロン	12	水4	R	⑤	
	91620	比較文学研究B			2	(休 講)	12				
	89280	ジェンダー研究			2	(休 講)	12				
	89570	社会思想史研究	W. ベンヤミンを読む	2		矢野 久美子	12	木4	R	③	
	89150	キリスト教思想	地球市民とキリスト教	2		原口 尚彰	12	火1	R		
選択必修Ⅲ	91730	修士論文指導		2		近藤 存志	12	金6	R		4単位を修得
	91740			2		近藤 存志	12	金6	R		
	91731			2		渡辺 信二	12	金6	R		
	91741			2		渡辺 信二	12	金6	R		
	91732			2		向井 秀忠	12	金6	R		
	91742			2		向井 秀忠	12	金6	R		
	91733			2		由井 哲哉	12	金6	R		
	91743			2		由井 哲哉	12	金6	R		
	91734			2		梅崎 透	12	金6	R		
	91744			2		梅崎 透	12	金6	R		
	91735			2		藤本 朝巳	12	金6	R		
	91745			2		藤本 朝巳	12	金6	R		
	91736			2		(休 講)	12				
	91746			2		(休 講)	12				
	91737			2		富樫 剛	12	金6	R		
91747		2		富樫 剛	12	金6	R				
91738		2		大畑 甲太	12	金6	R				
91748		2		大畑 甲太	12	金6	R				

【備考欄】 ①=英文学専攻・コミュニケーション学専攻複式開講科目 ②=英文学専攻・コミュニケーション学専攻・国際交流専攻複式開講
③=国際交流研究科・人文科学研究科複式開講 ④=MD複式開講（人文・2016） ⑤=英語による授業

日本文学専攻（博士前期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日時限	開講校舎	備考	履修方法
				前	後						
選択必修Ⅰ	93010	日本文化研究A		2		(休 講)	12				I群から4単位以上を修得
	93020	日本文化研究B		2		(休 講)	12				
	93030	上代文学研究A	万葉集輪読	2		松田 浩	12	金 2	R	④	
	93040	上代文学研究B	万葉集輪読	2		松田 浩	12	金 2	R	④	
	93050	中古文学研究A	源氏物語研究	2		吉井 美弥子	12	水 3	R		
	93060	中古文学研究B	源氏物語研究	2		吉井 美弥子	12	水 4	R		
	93070	古代文化研究A		2		(休 講)	12				
	93080	古代文化研究B		2		(休 講)	12				
	93090	中世文学研究A	和歌研究の現在	2		谷 知子	12	火 4	R	④	
	93100	中世文学研究B	和歌研究の現在	2		谷 知子	12	火 3	R	④	
	93110	近世文学研究A		2		(休 講)	12				
	93120	近世文学研究B		2		(休 講)	12				
	93750	近世文化研究A		2		(休 講)	12				
	93760	近世文化研究B		2		(休 講)	12				
	93130	中近世文化研究A		2		(休 講)	12				
	93140	中近世文化研究B		2		(休 講)	12				
	93150	近代文学研究1A	日本近現代文学研究の方法を学ぶA	2		佐藤 裕子	12	月 2	R	④	
	93160	近代文学研究1B	近現代文学研究の方法を学ぶB	2		佐藤 裕子	12	月 2	R	④	
	93170	近代文学研究2A	現代文学と〈家族〉、〈共同体〉、〈つながり〉1	2		黒岩 裕市	12	水 4	R		
	93180	近代文学研究2B	現代文学と〈家族〉、〈共同体〉、〈つながり〉2	2		黒岩 裕市	12	水 4	R		
	93190	近現代文学研究A		2		(休 講)	12				
	93200	近現代文学研究B		2		(休 講)	12				
	93210	近代文化研究A		2		(休 講)	12				
	93220	近代文化研究B		2		(休 講)	12				
	93230	歴史日本語学研究A	日本語史研究の諸問題	2		勝田 耕起	12	月 5	R	① ④	
	93240	歴史日本語学研究B	文献国語史的演習	2		勝田 耕起	12	木 5	R	① ④	
	93250	現代日本語学研究A	言語コミュニケーション研究の諸相A	2		齋藤 孝滋	12	水 2	R	② ④	
	93260	現代日本語学研究B	言語コミュニケーション研究の諸相B	2		齋藤 孝滋	12	水 2	R	② ④	
	93770	日本語教育学研究A	日本語教育学研究	2		田中 里奈	12	木 3	R		
	93780	日本語教育学研究B	日本語教育学研究	2		田中 里奈	12	木 3	R	(休講)	
	93270	言語教育学研究A	言語教育学の諸問題	2		金澤 裕之	12	月 2	R		
	93280	言語教育学研究B		2		(休 講)	12				
	93290	日本語日本文化学研究A		2		(休 講)	12				
93300	日本語日本文化学研究B		2		(休 講)	12					
93310	漢文学研究A		2		(休 講)	12					
93320	漢文学研究B		2		(休 講)	12					
93330	日中比較文化研究A		2		(休 講)	12					
93340	日中比較文化研究B		2		(休 講)	12					
93350	文献研究A		2		(休 講)	12					
93360	文献研究B		2		(休 講)	12					
93370	上代文学演習A	拾遺和歌集の和歌文化1	2		猪股 ときわ	12	水 4	R	水3		
93380	上代文学演習B	拾遺和歌集の和歌文化2	2		猪股 ときわ	12	水 4	R			
93390	中古文学演習A	源氏物語の研究A	2		畠山 大二郎	12	金 5	R			
93400	中古文学演習B	源氏物語の研究B	2		畠山 大二郎	12	金 5	R			
93410	中世文学演習A	お伽草子『釈迦の本地』を読むA	2		小峯 和明	12	木 4	R			
93420	中世文学演習B	お伽草子『釈迦の本地』を読むB	2		小峯 和明	12	木 4	R			
93430	近世文学演習A		2		(休 講)	12					
93440	近世文学演習B		2		(休 講)	12					
93790	近世文化演習A	黙阿弥作品基礎資料と上演史	2		吉田 弥生	12	月 2	R			
93800	近世文化演習B	黙阿弥作品〈白浪物〉の再考	2		吉田 弥生	12	月 2	R	④		
93450	近代文学演習1A	近現代文学研究のスキルを学ぶA	2		島村 輝	12	金 5	R			
93460	近代文学演習1B	近現代文学研究のスキルを学ぶB	2		島村 輝	12	金 5	R			
93470	近代文学演習2A		2		(休 講)	12					
93480	近代文学演習2B		2		(休 講)	12					
93490	近現代文学演習A		2		(休 講)	12					
93500	近現代文学演習B		2		(休 講)	12					
93510	日本語学演習A		2		(休 講)	12					
93520	日本語学演習B		2		(休 講)	12					
93530	現代日本語学演習A		2		(休 講)	12					
93540	現代日本語学演習B		2		(休 講)	12					
93810	日本語教育学演習A		2		(休 講)	12					
93820	日本語教育学演習B		2		(休 講)	12					
93550	漢文学演習A		2		(休 講)	12					
93560	漢文学演習B		2		(休 講)	12					

【備考欄】 ①=日本文学専攻・コミュニケーション学専攻複式開講科目 ②=コミュニケーション学専攻・日本文学専攻複式開講科目
 ③=国際交流研究科・人文科学研究科複式開講 ④=MD複式開講（人文・2016） ⑤=英語による授業

日本文学専攻（博士前期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
				前	後						
選択	93590	比較文学研究A	短編小説の形式を、英米、日本を含め多くの国に探る	2		マーク バイロン	12	水4	R	⑤	4単位を修得
	93600	比較文学研究B			2	(休 講)	12				
	89280	ジェンダー研究			2	(休 講)	12				
	89570	社会思想史研究	W. ベンヤミンを読む		2	矢野 久美子	12	木4	R	③	
	89150	キリスト教思想	地球市民とキリスト教		2	原口 尚彰	12	火1	R		
選択必修Ⅲ	93730	修士論文指導			2	勝田 耕起	12	金6	R		
	93740				2	勝田 耕起	12	金6	R		
	93731				2	佐藤 裕子	12	金6	R		
	93741				2	佐藤 裕子	12	金6	R		
	93732				2	島村 輝	12	金6	R		
	93742				2	島村 輝	12	金6	R		
	93733				2	(休 講)	12				
	93743				2	(休 講)	12				
	93734				2	谷 知子	12	金6	R		
	93744				2	谷 知子	12	金6	R		
	93735				2	吉田 弥生	12	金6	R		
	93745				2	吉田 弥生	12	金6	R		
	93736				2	松田 浩	12	金6	R		
	93746				2	松田 浩	12	金6	R		
	93737				2	(休 講)	12				
93747			2	(休 講)	12						

【備考欄】 ①=日本文学専攻・コミュニケーション学専攻複式開講科目
③=国際交流研究科・人文科学研究科複式開講

②=コミュニケーション学専攻・日本文学専攻複式開講科目
④=MD複式開講（人文・2016）
⑤=英語による授業

コミュニケーション学専攻（博士前期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
				前	後						
選択必修Ⅰ	95010	心理コミュニケーション研究1A		2		(休講)	12				I群から4単位以上を修得
	95020	心理コミュニケーション研究1B		2		(休講)	12				
	95030	心理コミュニケーション研究2A	心理コミュニケーションの研究（基礎的認知）	2		潮村 公弘	12	水2	R		
	95040	心理コミュニケーション研究2B	心理コミュニケーションの研究（応用的認知）	2		潮村 公弘	12	金5	R		
	95050	社会コミュニケーション研究1A	子育て支援とコミュニケーション	2		井上 恵美子	12	火1	R	⑤	
	95060	社会コミュニケーション研究1B	ジェンダー平等教育とコミュニケーション	2		井上 恵美子	12	火1	R		
	95070	社会コミュニケーション研究2A	コミュニケーション論・言語論文読講A	2		高田 明典	12	月3	R		
	95080	社会コミュニケーション研究2B	コミュニケーション論・言語論文読講B	2		高田 明典	12	月3	R		
	95090	社会コミュニケーション研究3A		2		(休講)	12				
	95100	社会コミュニケーション研究3B		2		(休講)	12				
	95110	言語コミュニケーション研究1A	コーパス日本語学の射程	2		大野 眞男	12	集中	R		
	95120	言語コミュニケーション研究1B	文献国語史的演習	2		勝田 耕起	12	木5	R	① ⑤	
	95130	言語コミュニケーション研究2A	支援談話と言語分析1	2		鏡平名 尚子	12	木1	R	②	
	95140	言語コミュニケーション研究2B	言語教育学研究の諸問題	2		田中 香織	12	集中	R		
	95150	文化コミュニケーション研究1A	舞踊の身体を考える	2		高橋 京子	12	金1	R		
	95160	文化コミュニケーション研究1B	舞踊の身体を考える	2		高橋 京子	12	金1	R		
	95170	文化コミュニケーション研究2A	国際社会学にとっての「多文化共生」理念とは	2		小ヶ谷 千穂	12	水2	R	⑤	
	95180	文化コミュニケーション研究2B	多文化共生概念の批判的検討	2		小ヶ谷 千穂	12	木4	R		
	95190	文化コミュニケーション研究3A		2		(休講)	12				
	95200	文化コミュニケーション研究3B		2		(休講)	12				
	95210	文化コミュニケーション研究4A	文化社会学の基礎を理解する	2		辻 泉	12	月2	R		
	95220	文化コミュニケーション研究4B	メディア論の基礎を理解する	2		辻 泉	12	月2	R		
	95230	リサーチメソッド1	定量調査実施プロセスの理論と実践	2		坂場 登	12	水4	R		
95240	リサーチメソッド2	調査データ解析の理論と実践	2		坂場 登	12	水4	R			
95250	リサーチメソッド3	エスノメソッドロジー・会話分析による質的研究の実践	2		森 一平	12	金3	R			
選択必修Ⅱ	95260	心理コミュニケーション演習1A	社会心理学関係の学術論文を読む1A	2		渡辺 浪二	12	金2	R	⑤	II群から8単位以上を修得
	95270	心理コミュニケーション演習1B	社会心理学関係の学術論文を読む1B	2		渡辺 浪二	12	金2	R		
	95280	心理コミュニケーション演習2A		2		(休講)	12				
	95290	心理コミュニケーション演習2B		2		(休講)	12				
	95300	社会コミュニケーション演習1A		2		(休講)	12				
	95310	社会コミュニケーション演習1B		2		(休講)	12				
	95320	社会コミュニケーション演習2A		2		(休講)	12				
	95330	社会コミュニケーション演習2B		2		(休講)	12				
	95340	社会コミュニケーション演習3A	アメリカ文化史・知識人史演習A	2		梅崎 透	12	木5	R	② 水1	
	95350	社会コミュニケーション演習3B	アメリカ文化史・知識人史演習B	2		梅崎 透	12	水1	R		
	95360	言語コミュニケーション演習1A	言語コミュニケーション研究の諸相A	2		齋藤 孝滋	12	水2	R	③ ⑤	
	95370	言語コミュニケーション演習1B	言語コミュニケーション研究の諸相B	2		齋藤 孝滋	12	水2	R		
	95380	言語コミュニケーション演習2A	日本語史研究の諸問題	2		勝田 耕起	12	月5	R	①	
	95390	言語コミュニケーション演習2B		2		(休講)	12				
	95400	文化コミュニケーション演習1A		2		(休講)	12				
	95410	文化コミュニケーション演習1B		2		(休講)	12				
	95420	文化コミュニケーション演習2A		2		(休講)	12				
95430	文化コミュニケーション演習2B		2		(休講)	12					
95440	文化コミュニケーション演習3A	異文化コミュニケーション英書講読	2		相澤 一	12	火4	R			
95450	文化コミュニケーション演習3B	異文化コミュニケーション英書講読	2		相澤 一	12	火4	R			
95460	文化コミュニケーション演習4A	文化社会学の基礎を理解する	2		諸橋 泰樹	12	水2	R	⑤		
95470	文化コミュニケーション演習4B	文化社会学の基礎理論を読解する	2		諸橋 泰樹	12	水2	R			
選択	95480	比較文学研究A	短編小説の形式を、英米、日本を含め多くの国に探る	2		マーク バイロン	12	水4	R	⑥	
	95490	比較文学研究B		2		(休講)	12				
	89280	ジェンダー研究		2		(休講)	12				
	89570	社会思想史研究	W.ベンヤミンを読む	2		矢野 久美子	12	木4	R	④	
	89150	キリスト教思想	地球市民とキリスト教	2		原口 尚彰	12	火1	R		
選択必修Ⅲ	95530	修士論文指導		2		渡辺 浪二	12	金6	R		4単位を修得
	95531			2		渡辺 浪二	12	金6	R		
	95532			2		潮村 公弘	12	金6	R		
	95533			2		潮村 公弘	12	金6	R		
	95534			2		井上 恵美子	12	金6	R		
	95535			2		井上 恵美子	12	金6	R		
	95536			2		高田 明典	12	金6	R		
	95537			2		高田 明典	12	金6	R		
	95538			2		齋藤 孝滋	12	金6	R		
	95539			2		齋藤 孝滋	12	金6	R		
	95540			2		諸橋 泰樹	12	金6	R		
	95541			2		諸橋 泰樹	12	金6	R		
	95542			2		(休講)	12				
	95543			2		(休講)	12				
	95544			2		小ヶ谷 千穂	12	金6	R		
95545		2		小ヶ谷 千穂	12	金6	R				

【備考欄】 ①=日本文学専攻・コミュニケーション学専攻複式開講科目
 ②=英文学専攻・コミュニケーション学専攻・国際交流学専攻複式開講科目
 ③=コミュニケーション学専攻・日本文学専攻複式開講科目
 ④=国際交流研究所・人文科学研究科複式開講
 ⑤=M0複式開講（人文・2016）
 ⑥=英語による授業

英文学専攻（博士後期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
				前	後						
選択必修Ⅰ	92010	イギリス文学特別研究A	イギリス小説論を読む1	2		向井 秀忠	123	金2	R	①	4単位以上を 修得
	92011		イギリス・ルネサンス演劇演習A	2		由井 哲哉	123	水2	R		
	92012		イギリス詩研究A	2		富樫 剛	123	月2	R		
	92020	イギリス文学特別研究B	イギリス小説論を読む2	2	2	向井 秀忠	123	金2	R		
	92021		ルネサンス演劇研究	2		由井 哲哉	123	水2	R		
	92022		イギリス詩研究B	2		富樫 剛	123	月5	R		
	92030	イギリス文化特別研究A	イギリス芸術文化と時代・社会A	2		近藤 存志	123	火4	R		
	92031		児童文学研究・時代と作品A	2		藤本 朝巳	123	火2	R		
	92040	イギリス文化特別研究B	イギリス芸術文化と時代・社会B	2		近藤 存志	123	火3	R		
	92041		児童文学研究・時代と作品B	2		藤本 朝巳	123	火3	R		
	92050	アメリカ文学特別研究A	アメリカ詩を読み解く： エミリー・ディキンソン（1）	2		渡辺 信二	123	水2	R		
	92060	アメリカ文学特別研究B	アメリカ詩を読み解く： エミリー・ディキンソン（2）	2		渡辺 信二	123	水2	R		
	92070	アメリカ文化特別研究A	アメリカ文化史・知識人史演習A	2		梅崎 透	123	木5	R		
	92080	アメリカ文化特別研究B	アメリカ文化史・知識人史演習B	2		梅崎 透	123	水1	R		
	92090	アメリカ社会特別研究A		2		（休 講）	123				
	92100	アメリカ社会特別研究B		2		（休 講）	123				
	92110	英語学特別研究A	応用言語学研究 A	2		大畑 甲太	123	金5	R		
	92120	英語学特別研究B	応用言語学研究 B	2		大畑 甲太	123	金5	R		
選択必修Ⅱ	92130	博士論文指導		4		藤本 朝巳	123	金6	R	①	4単位を修得
	92131			4		渡辺 信二	123	金6	R		
	92132			4		近藤 存志	123	金6	R		
	92133			4		由井 哲哉	123	金6	R		
	92134			4		向井 秀忠	123	金6	R		
	92135			4		富樫 剛	123	金6	R		

【備考欄】 （通年）＝通年科目 ①＝MD複式開講（人文・2016）

日本文学専攻（博士後期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
				前	後						
選択必修Ⅰ	94010	古代文学特別研究A		2		(休 講)	123				4単位以上を 修得
	94011			2		松田 浩	123	金 2	R	①	
	94020	古代文学特別研究B		2		(休 講)	123				
	94021			2		松田 浩	123	金 2	R		
	94030	中近世文学特別研究A	和歌研究の現在	2		谷 知子	123	火 4	R	①	
	94031			2		(休 講)	123				
	94040	中近世文学特別研究B	和歌研究の現在	2		谷 知子	123	火 3	R	①	
	94041			2		(休 講)	123				
	94100	近世文化特別研究A	近世表象文化研究の理論と実践（1）	2		吉田 弥生	123	月 2	R		
	94110	近世文化特別研究B	近世表象文化研究の理論と実践（2）	2		吉田 弥生	123	月 2	R		
	94050	近代文学特別研究A	近現代文学研究の方法を学ぶA	2		佐藤 裕子	123	月 2	R	①	
	94051		近現代文学研究のさまざまな方法を学ぶA	2		島村 輝	123	金 5	R		
	94052			2		(休 講)	123				
	94060	近代文学特別研究B	近現代文学研究の方法を学ぶB	2		佐藤 裕子	123	月 2	R	①	
	94061		近現代文学研究のさまざまな方法を学ぶB	2		島村 輝	123	金 5	R		
	94062			2		(休 講)	123				
	94070	日本語学特別研究A	日本語史研究の諸問題	2		勝田 耕起	123	月 5	R	①	
	94080	日本語学特別研究B	文献国語史的演習	2		勝田 耕起	123	木 5	R		
94120	日本語教育学特別研究A		2		(休 講)	123					
94130	日本語教育学特別研究B		2		(休 講)	123					
選択必修Ⅱ	94091	博士論文指導		4		佐藤 裕子	123	金 6	R	(通年)	4単位を修得
	94092			4		島村 輝	123	金 6	R		
	94093			4		(休 講)	123				
	94090			4		谷 知子	123	金 6	R		
	94094			4		(休 講)	123				
	94095			4		松田 浩	123	金 6	R		
94096		4		勝田 耕起	123	金 6	R				

【備考欄】 (通年) = 通年科目 ① = MD複式開講 (人文・2016)

コミュニケーション学専攻（博士後期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日時限	開講校舎	備考	履修方法
				前	後						
選択必修Ⅰ	96010	心理コミュニケーション特別研究A	社会心理学関係の海外学術論文を読むA	2		渡辺 浪二	123	金 2	R		4単位以上を修得
	96011		心理コミュニケーションの研究（基礎心理学的な認知）	2		潮村 公弘	123	水 2	R		
	96020	心理コミュニケーション特別研究B	社会心理学関係の海外学術論文を読むB	2		渡辺 浪二	123	金 2	R		
	96021		心理コミュニケーションの研究（応用心理学的な認知）	2		潮村 公弘	123	金 5	R		
	96030	社会コミュニケーション特別研究A	子育て支援とコミュニケーション	2		井上 恵美子	123	火 1	R		
	96031		コミュニケーション論・言語論文購読A	2		高田 明典	123	月 3	R		
	96040	社会コミュニケーション特別研究B	ジェンダー平等教育とコミュニケーション	2		井上 恵美子	123	火 1	R		
	96041		コミュニケーション論・言語論文購読B	2		高田 明典	123	月 3	R		
	96050	言語コミュニケーション特別研究A	言語コミュニケーション研究の諸問題A	2		齋藤 孝滋	123	水 2	R		
	96060		言語コミュニケーション研究の諸問題B	2		齋藤 孝滋	123	水 2	R		
	96070	文化コミュニケーション特別研究A	カルチュラルスタディーズ、ポストコロナリズム入門	2		諸橋 泰樹	123	水 2	R		
	96071		国際社会学にとっての「多文化共生」理念とは	2		小ヶ谷 千穂	123	水 2	R		
	96080	文化コミュニケーション特別研究B	カルチュラルスタディーズ、ポストコロナリズム実践	2		諸橋 泰樹	123	水 2	R		
	96081		国際社会学・国際移動論の最新状況を読む	2		小ヶ谷 千穂	123	木 4	R		
選択必修Ⅱ	96090	博士論文指導		4		諸橋 泰樹	123	金 6	R	(通年)	4単位を修得
	96091			4		齋藤 孝滋	123	金 6	R		
	96092			4		高田 明典	123	金 6	R		
	96093			4		潮村 公弘	123	金 6	R		

【備考欄】 (通年) = 通年科目 ① = MD複式開講 (人文・2016)

国際交流専攻（博士前期課程）

群	種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日時限	開講校舎	備考	履修方法	
					前	後							
第1群	グローバル化と現代社会	89010	グローバル化研究総論		2		(休 講)	12			①		
		89020	現代社会論	現代社会論 I	2		ベンヤミン D. ミドルトン	12	木 4	R			
		89030	比較憲法論		2		(休 講)	12					
		89540	法秩序と現代社会	社会科学に関する外国語文献を読むV	2		荒井 真	12	金 2	R	②		
		89040	情報技術と現代社会	情報化社会の光と影	2		春木 良且	12	月 5	R			
	グローバル化と国際関係	89060	ジェンダー論	ジェンダー論の基本文献を読むII	2		田丸 理砂	12	金 3	R	③		
		89061	ジェンダー論		2		(休 講)	12					
		89070	国際政治論	国際関係理論とその適用方法	2		古内 洋平	12	木 2	R			
		89080	国際機構論	国連持続可能な開発目標の諸課題—教育と環境	2		高柳 彰夫	12	月 5	R	②		
		89090	国際人権論		2		(休 講)	12					
		89100	国際平和論		2		(休 講)	12					
		89510	国際政治経済論		2		(休 講)	12					
		89110	開発経済論		2		(休 講)	12					
		89130	地球環境論		2		(休 講)	12					
		89830	環境と持続可能性	地域社会における持続可能性への取り組み	2		高雄 綾子	12	金 1	R			
第2群	グローバル化と社会運動	89140	市民運動・NGO・NPO		2		(休 講)	12			②		
		89820	国際スポーツ論	スポーツの中心と周縁	2		和田 浩一	12	水 1	R			
		89550	文明間対話の可能性		2		(休 講)	12				火 3	
		89150	キリスト教の現代的課題/キリスト教思想	地球市民とキリスト教	2		原口 尚彰	12	火 1	R	④		
		89160	地域社会研究総論	地域研究の方法 II	2		中塚 次郎	12	火 5	R	①		
	グローバル化と地域社会	89170	ヨーロッパ地域社会研究		2		(休 講)	12				②	
		89180	北アメリカ地域社会研究	アメリカ文化史・知識人史演習日	2		梅崎 透	12	水 1	R	⑤		
		89190	ラテンアメリカ地域社会研究	南米における日本人移民の研究概説	2		ヒガ、 マルセーロ	12	木 3	R			
		89200	アジア地域社会研究		2		(休 講)	12					
		89560	南アジア地域社会研究	南アジアから考える開発と貧困	2		木曾 順子	12	火 1	R			
		89270	ヨーロッパ社会とキリスト教		2		(休 講)	12				②	
		89210	開発と地域社会	東南アジア地域における環境・開発問題の平和研究	2		横山 正樹	12	木 4	R			
		89610	家族と地域社会	アジアの社会変動と家族	2		金 香男	12	火 5	R	② ③		
		89220	ヨーロッパ文化論	ヨーロッパとは何か	2		大野 英二郎	12	木 5	R			
		89230	ラテンアメリカ文化論	現代ラテンアメリカの小説文学	2		寺尾 隆吉	12	火 3	R	②		
第3群	グローバル化と地域文化	89240	アジア文化論	中国現代思想研究 16	2		福島 仁	12	木 4	R			
		89570	ヨーロッパ現代思想/社会思想史研究	W. ベンヤミンを読む	2		矢野 久美子	12	木 4	R	② ④		
		89580	ヨーロッパの文化表象		2		(休 講)	12					
		89590	ヨーロッパの文化とジェンダー		2		(休 講)	12				③	
		89280	アジアの文化とジェンダー/ジェンダー研究		2		(休 講)	12				③ ④	
	シヨンの中の日本	89290	日本近現代史研究総論	国際交流史の視点から	2		大西 比呂志	12	月 5	R	①		
		89310	日本歴史文化論	能楽の中に見る中世社会	2		箕 雅博	12	火 2	R	②		
		89320	日中関係の歴史と現在		2		(休 講)	12					
		89330	日朝関係の歴史と現在		2		(休 講)	12					
		89340	欧米の社会科学と日本の社会科学		2		(休 講)	12					
		89660	日本の近代と横浜	近代都市の政治と社会	2		大西 比呂志	12	月 5	R	②		
		89520	国際交流特殊研究		2		(未定)	12	未定	R		火 5	
		89521	国際交流特殊研究		2		(未定)	12	未定	R			
		89522	国際交流特殊研究		2		(未定)	12	未定	R			
		89370	世界の中の日本国憲法	日本国憲法の世界の憲法の中での位置づけ	2		常岡(乗本) せつ子	12	金 2	R			
グローバル化と日本	89380	日本社会とジェンダー		2		(休 講)	12				③		
	89390	日本社会と移民		2		(休 講)	12				②		
	89400	日本の環境問題	地球環境との関連性と環境ビジネス	2		佐藤 輝	12	木 3	R	②			
	89410	キリスト教と日本社会		2		(休 講)	12						
	89810	日本経済の歴史と現在	日本の経済発展の過程	2		齊藤 直	12	水 1	R				

【備考欄】 ①=研究総論科目 ②=M複式開講(2016) ③=ジェンダー関連科目 ④=国際交流研究科・人文科学研究科複式開講 ⑤=英文学専攻・コミュニケーション学専攻・国際交流専攻複式開講 ⑥=「修了レポート」選択者は必修

国際交流専攻（博士前期課程）

群	種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法	
					前	後							
	文献講読	89420			2		(休 講)	12					
		89421			2		(休 講)	12					
		89422			2		(休 講)	12					
	言語演習	89440				2		(休 講)	12				
		89441				2		(休 講)	12				
		89443				2		(休 講)	12				
	国際交流実務研修	89790		グローバル化と日本A		2		大西 比呂志	12	時外	R		
		89791		グローバル化と横浜A		2		大西 比呂志	12	時外	R		
		89620		自分史の書き方・時代の見方	時代と世代	2		大野 英二郎	12	木 6	R	⑥	
	修士論文指導	修士論文指導	89670			2		古内 洋平	12	土 4	R		
89671					2		古内 洋平	12	土 4	R			
89678					2		(休 講)	12					
89679					2		(休 講)	12					
89684					2		ベンヤミン D. ミドルトン	12	土 4	R			
89685					2		ベンヤミン D. ミドルトン	12	土 4	R			
89672					2		(休 講)	12					
89673					2		(休 講)	12					
89674					2		佐藤 輝	12	土 4	R			
89675					2		佐藤 輝	12	土 4	R			
89676					2		春木 良且	12	土 4	R			
89677					2		春木 良且	12	土 4	R			
89680					2		和田 浩一	12	土 4	R			
89681					2		和田 浩一	12	土 4	R			
89682					2		高柳 彰夫	12	土 4	R			
89683					2		高柳 彰夫	12	土 4	R			
89686					2		横山 正樹	12	土 4	R			
89687					2		横山 正樹	12	土 4	R			
89688					2		ヒガ, マルセーロ	12	土 4	R			
89689					2		ヒガ, マルセーロ	12	土 4	R			
89690					2		(休 講)	12					
89691					2		(休 講)	12					
89692					2		福島 仁	12	土 4	R			
89693					2		福島 仁	12	土 4	R			
89694					2		(休 講)	12					
89695					2		(休 講)	12					
89696					2		荒井 真	12	土 4	R			
89697					2		荒井 真	12	土 4	R			
89698					2		笥 雅博	12	土 4	R			
89699					2		笥 雅博	12	土 4	R			
89700					2		木曾 順子	12	土 4	R			
89701					2		木曾 順子	12	土 4	R			
89702					2		大野 英二郎	12	土 4	R			
89703					2		大野 英二郎	12	土 4	R			
89704					2		中塚 次郎	12	土 4	R			
89705					2		中塚 次郎	12	土 4	R			
89706					2		寺尾 隆吉	12	土 4	R			
89707					2		寺尾 隆吉	12	土 4	R			
89708					2		(休 講)	12					
89709					2		(休 講)	12					
89710					2		(休 講)	12					
89711					2		(休 講)	12					
89712			2		原口 尚彰	12	土 4	R					
89713			2		原口 尚彰	12	土 4	R					
89714			2		(休 講)	12							
89715			2		(休 講)	12							
89716			2		矢野 久美子	12	土 4	R					
89717			2		矢野 久美子	12	土 4	R					
89718			2		田丸 理砂	12	土 4	R					
89719			2		田丸 理砂	12	土 4	R					
89720			2		常岡(乗本) せつ子	12	土 4	R					
89721			2		常岡(乗本) せつ子	12	土 4	R					
89722			2		金 香男	12	土 4	R					
89723			2		金 香男	12	土 4	R					
89724			2		大西 比呂志	12	土 4	R					
89725			2		大西 比呂志	12	土 4	R					
89726			2		齊藤 直	12	土 4	R					
89727			2		齊藤 直	12	土 4	R					
89728			2		高雄 綾子	12	土 4	R					
89729			2		高雄 綾子	12	土 4	R					

指導教授の担当する科目を4単位以上修得。履修上の注意あり。

【備考欄】 ①=研究総論科目 ②=MD複式開講(2016)
 ③=ジェンダー関連科目 ④=国際交流研究科・人文科学研究科複式開講
 ⑤=英文学専攻・コミュニケーション学専攻・国際交流専攻複式開講 ⑥=「修了レポート」選択者は必修

大学院開講科目表
 国際交流研究科
 博士前期課程

国際交流専攻（博士前期課程）

群	種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
		89730			2		古内 洋平	12	土4	R		
		89731			2		古内 洋平	12	土4	R		
		89739			2		(休 講)	12				
		89738			2		(休 講)	12				
		89744			2		ベンヤミン D. ミドルトン	12	土4	R		
		89745			2		ベンヤミン D. ミドルトン	12	土4	R		
		89732			2		(休 講)	12				
		89733			2		(休 講)	12				
		89734			2		佐藤 輝	12	土4	R		
		89735			2		佐藤 輝	12	土4	R		
		89736			2		春木 良且	12	土4	R		
		89737			2		春木 良且	12	土4	R		
		89740			2		和田 浩一	12	土4	R		
		89741			2		和田 浩一	12	土4	R		
		89742			2		高柳 彰夫	12	土4	R		
		89743			2		高柳 彰夫	12	土4	R		
		89746			2		横山 正樹	12	土4	R		
		89747			2		横山 正樹	12	土4	R		
		89748			2		ヒガ, マルセーロ	12	土4	R		
		89749			2		ヒガ, マルセーロ	12	土4	R		
		89750			2		(休 講)	12				
		89751			2		(休 講)	12				
		89752			2		福島 仁	12	土4	R		
		89753			2		福島 仁	12	土4	R		
		89754			2		(休 講)	12				
		89755			2		(休 講)	12				
		89756			2		荒井 真	12	土4	R		
		89757			2		荒井 真	12	土4	R		
		89758			2		寛 雅博	12	土4	R		
		89759			2		寛 雅博	12	土4	R		
		89760	修士論文指導		2		木曾 順子	12	土4	R		
		89761			2		木曾 順子	12	土4	R		
		89762			2		大野 英二郎	12	土4	R		
		89763			2		大野 英二郎	12	土4	R		
		89764			2		中塚 次郎	12	土4	R		
		89765			2		中塚 次郎	12	土4	R		
		89766			2		寺尾 隆吉	12	土4	R		
		89767			2		寺尾 隆吉	12	土4	R		
		89768			2		(休 講)	12				
		89769			2		(休 講)	12				
		89770			2		(休 講)	12				
		89771			2		(休 講)	12				
		89772			2		原口 尚彰	12	土4	R		
		89773			2		原口 尚彰	12	土4	R		
		89774			2		(休 講)	12				
		89775			2		(休 講)	12				
		89776			2		矢野 久美子	12	土4	R		
		89777			2		矢野 久美子	12	土4	R		
		89778			2		田丸 理砂	12	土4	R		
		89779			2		田丸 理砂	12	土4	R		
		89780			2		常岡(乗本) せつ子	12	土4	R		
		89781			2		常岡(乗本) せつ子	12	土4	R		
		89782			2		金 香男	12	土4	R		
		89783			2		金 香男	12	土4	R		
		89784			2		大西 比呂志	12	土4	R		
		89785			2		大西 比呂志	12	土4	R		
		89786			2		齊藤 直	12	土4	R		
		89787			2		齊藤 直	12	土4	R		
		89788			2		高雄 綾子	12	土4	R		
		89789			2		高雄 綾子	12	土4	R		

指導教授の担当する科目を4単位以上修得。履修上の注意あり。

【備考欄】 ①=研究総論科目 ②=MD複式開講(2016)
 ③=ジェンダー関連科目 ④=国際交流研究科・人文科学研究科複式開講
 ⑤=英文学専攻・コミュニケーション学専攻・国際交流専攻複式開講 ⑥=「修士レポート」選択者は必修

国際交流専攻（博士後期課程）

種別	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
				前	後						
特別研究	90010	グローバリゼーションと現代社会	情報化社会論	2		春木 良且	123	月5	R	① ■指導教授の「特別研究」2単位を修得 ■その他2単位を修得 木4	
	90011	特別研究	社会科学に関する外国語文献を読むⅢ	2		荒井 真	123	金2	R		
	90020	グローバリゼーションと国際関係	国連持続可能な開発目標の諸課題－教育と環境	2		高柳 彰夫	123	月5	R		
	90021	特別研究		2		(休 講)	123				
	90030	グローバリゼーションと社会		2		(休 講)	123				
	90031	運動特別研究	キリスト教の現代的課題	2	2	原口 尚彰	123	火1	R		
	90040	グローバリゼーションと社会運動		2		(休 講)	123				
	90043	特別研究	グローバル化する家族	2		金 香男	123	火5	R		
	90041	地域社会	東南アジア地域における環境・開発問題の平和研究	2		横山 正樹	123	木4	R		
	90042		南アジアから考える開発と貧困	2		木曾 順子	123	火1	R		
	90050		グローバリゼーションと地域	2		大野 英二郎	123	木5	R		
	90051			2		(休 講)	123				
	90053	グローバリゼーションと地域文化	ラテンアメリカの現代文化	2		寺尾 隆吉	123	火3	R		
	90052	特別研究	中国現代思想研究16	2		福島 仁	123	木4	R		
	90054		ドイツ文学とジェンダー	2		田丸 理砂	123	火4	R		
	90055		技術と現代思想	2		矢野 久美子	123	木4	R		
	90056			2		(休 講)	123				
	90060	グローバリゼーションの中の日本	鎌倉時代の記録に見る王権	2		寛 雅博	123	火2	R		
	90061	特別研究	横浜の外国人社会	2		大西 比呂志	123	月5	R		
	90070	グローバリゼーションと日本の社会問題		2		(休 講)	123				
90071	特別研究	地球環境との関連性と環境ビジネス	2		佐藤 輝	123	本3	R			
90130	国際交流実務研修	グローバリゼーションと日本B	2		大西 比呂志	123	時外	R			
90131		グローバリゼーションと横浜B	2		大西 比呂志	123	時外	R			
博士論文指導	90090	博士論文指導		4		木曾 順子	123	時外	R	(通年) 指導教授の担当する科目を4単位修得	
	90091			4		(休 講)	123				
	90093			4		大野 英二郎	123	時外	R		
	90092			4		横山 正樹	123	時外	R		
	90094			4		寛 雅博	123	時外	R		
	90095			4		荒井 真	123	時外	R		
	90096			4		(休 講)	123				
	90097			4		大西 比呂志	123	時外	R		
	90098			4		田丸 理砂	123	時外	R		
	90099			4		春木 良且	123	時外	R		
	90100			4		ヒガ, マルセーロ	123	時外	R		
	90101			4		原口 尚彰	123	時外	R		
	90102			4		矢野 久美子	123	時外	R		
	90103			4		(休 講)	123				
	90104			4		高柳 彰夫	123	時外	R		
90105		4		常岡(兼本) せつ子	123	時外	R				
90106		4		中塚 次郎	123	時外	R				

【備考欄】 ①=M重複式開講 (2016)

音楽芸術専攻（修士課程）

種別	開放	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
選択必修Ⅰ		97010	作曲研究1A		2		(休講)	12				I群から4単位以上修得
		97020	作曲研究1B		2		(休講)	12				
		97030	作曲研究2A		2		(休講)	12				
		97040	作曲研究2B		2		(休講)	12				
		97410	応用音楽研究1A		2		(休講)	12				
		97420	応用音楽研究1B		2		(休講)	12				
		97430	応用音楽研究2A	ポピュラー音楽の様式史研究	2		川本 聡胤	12	火4	Y		
		97440	応用音楽研究2B	ポピュラー音楽の様式史研究	2		川本 聡胤	12	火4	Y		
		97450	音楽文化研究1A	研究/制作上の「問い」を明らかにし解決する	2		瀬藤 康嗣	12	月2	Y	(隔年開講)	
		97460	音楽文化研究1B	研究/制作上の「問い」を明らかにし解決する	2		瀬藤 康嗣	12	月2	Y		
		97470	音楽文化研究2A		2		(休講)	12				
		97480	音楽文化研究2B		2		(休講)	12				
		97090	音楽コミュニケーション研究1A		2		(休講)	12				
		97100	音楽コミュニケーション研究1B		2		(休講)	12				
		97110	音楽コミュニケーション研究2A		2		(休講)	12				
	97120	音楽コミュニケーション研究2B		2		(休講)	12					
選択必修Ⅱ		97130	作曲演習1A	作曲技法の修得・室内楽作品を作曲	2		たかの 舞俐	12	月5	Y		II群から4単位以上修得
		97140	作曲演習1B	室内楽から室内オーケストラまでの作曲を試みる	2		たかの 舞俐	12	月5	Y		
		97150	作曲演習2A		2		(休講)	12				
		97160	作曲演習2B		2		(休講)	12				
		97490	応用音楽演習1A	音楽学・音楽史の実践的学び1	2		谷口 昭弘	12	火3	Y		
		97500	応用音楽演習1B	音楽学・音楽史の実践的学び2	2		谷口 昭弘	12	火3	Y		
		97510	応用音楽演習2A		2		(休講)	12				
		97520	応用音楽演習2B		2		(休講)	12				
		97530	音楽文化演習1A		2		(休講)	12				
		97540	音楽文化演習1B		2		(休講)	12				
		97550	音楽文化演習2A	音のユニバーサルデザイン	2		(休講)	12				
		97560	音楽文化演習2B	音のユニバーサルデザインII	2		(休講)	12				
		97210	音楽コミュニケーション演習1A	プロフェッショナルなアンサンブルのために	2		立神 粧子	12	金3	Y		
		97220	音楽コミュニケーション演習1B	よりプロフェッショナルなアンサンブルのために	2		立神 粧子	12	金3	Y		
		97230	音楽コミュニケーション演習2A		2		(休講)	12				
	97240	音楽コミュニケーション演習2B		2		(休講)	12					
選択		97250	音楽人間環境科学A		2		(休講)	12				
		97260	音楽人間環境科学B		2		(休講)	12				
		97270	先端メディア・アート論A	デジタル技術を援用した研究/制作上の問題点	2		瀬藤 康嗣	12	月5	Y		
		97280	先端メディア・アート論B	デジタル技術を援用した研究/制作上の解決	2		瀬藤 康嗣	12	月5	Y		
		97290	音楽教育ワークショップA	音楽教育者に必要な技能を養う	2		川本 聡胤	12	火3	Y		
		97300	音楽教育ワークショップB	音楽教育者に必要な技能を養う	2		川本 聡胤	12	火3	Y		
		97310	音楽家のための創出型情報論A	修士論文をまとめるために	2		成田 麗奈	12	木3	Y		
	97320	音楽家のための創出型情報論B	これからの音楽家に必要な情報発信	2		成田 麗奈	12	木3	Y			
選択必修Ⅲ		97570	修士研究指導		2		たかの 舞俐	12	金6	Y		4単位修得
		97571			2		たかの 舞俐	12	金6	Y		
		97578			2		立神 粧子	12	金6	Y		
		97579			2		立神 粧子	12	金6	Y		

【備考欄】 ■=「他専攻への開放科目」

演奏専攻（修士課程）

種別	開放	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
選択必修Ⅰ		98010	声楽演奏研究1A		2		(休講)	12			(隔年開講)	I群から4単位以上修得
		98020	声楽演奏研究1B		2		(休講)	12				
		98030	声楽演奏研究2A	フランス近代歌曲の演奏法	2		太田 朋子	12	木3	Y		
		98040	声楽演奏研究2B	英語歌唱研究	2		辻 裕久	12	月3	Y		
		98050	声楽演奏研究3A		2		(休講)	12				
		98060	声楽演奏研究3B		2		(休講)	12				
		98070	器楽演奏研究1A		2		黒川 浩	12	木5	Y		
		98080	器楽演奏研究1B		2		黒川 浩	12	木5	Y		
		98090	器楽演奏研究2A		2		(休講)	12				
		98100	器楽演奏研究2B		2		(休講)	12				
		98110	器楽演奏研究3A		2		(休講)	12				
		98120	器楽演奏研究3B		2		(休講)	12				
		98130	器楽演奏研究4A		2		戸田 弥生	12	火2	Y		
		98140	器楽演奏研究4B		2		戸田 弥生	12	火2	Y		
		98150	器楽演奏研究5A		2		(休講)	12				
		98160	器楽演奏研究5B		2		(休講)	12				
		98170	器楽演奏研究6A	古今東西の指揮者解剖～世界観とオケも含めた実態象1	2		落合 敦	12	木4	Y		
		98180	器楽演奏研究6B	古今東西の指揮者解剖～世界観とオケも含めた実態象2	2		落合 敦	12	木4	Y		
	98190	器楽演奏研究7A	多種鍵盤楽器の演奏体験から学ぶ	2		宮本 とも子	12	月2	Y			
	98200	器楽演奏研究7B	多種鍵盤楽器の演奏体験を専攻実技に生かす	2		宮本 とも子	12	月2	Y			
選択必修Ⅱ		98210	声楽作品演習1A	オペラ作品研究、制作、公演	2		蔵田 雅之	12	木2	Y	(隔年開講)	II群から4単位以上修得
		98220	声楽作品演習1B	オペラ作品研究、制作、公演	2		蔵田 雅之	12	木2	Y		
		98230	声楽作品演習2A		2		(休講)	12				
		98240	声楽作品演習2B		2		(休講)	12				
		98250	声楽作品演習3A	日本歌曲研究	2		西 由起子	12	金2	Y		
		98260	声楽作品演習3B	重唱研究、制作、公演	2		蔵田 雅之	12	木3	Y		
		98270	器楽作品演習1A		2		(休講)	12				
		98280	器楽作品演習1B		2		(休講)	12				
		98290	器楽作品演習2A	ドイツ・ロマン派の作曲家たち	2		堀 由紀子	12	火5	Y		
		98300	器楽作品演習2B	フランス近代の作曲家たちと、その美意識の在り方	2		堀 由紀子	12	火5	Y		
		98310	器楽作品演習3A		2		(休講)	12				
		98320	器楽作品演習3B		2		(休講)	12				
		98330	器楽作品演習4A		2		(休講)	12				
		98340	器楽作品演習4B		2		(休講)	12				
		98350	器楽作品演習5A	作品の分析と解釈をもとに表現力を高めるA	2		井出 朋子	12	金1	Y		
		98360	器楽作品演習5B	作品の分析と解釈をもとに表現力を高めるB	2		井出 朋子	12	金1	Y		
		98370	器楽作品演習6A		2		(休講)	12				
		98380	器楽作品演習6B		2		(休講)	12				
	98390	器楽作品演習7A		2		(休講)	12					
	98400	器楽作品演習7B		2		(休講)	12					
選択	■	98410	演奏様式研究理論と実践A	ドイツ歌曲作品研究	2		西 由起子	12	金2	Y		
	■	98420	演奏様式研究理論と実践B	楽譜を読む上で知っておくべき事を実践しながら学ぶ	2		桐山 建志	12	集中	Y		
	■	98430	教会音楽指導者育成ワークショップA	様々な賛美歌のルーツを探る	2		宇内 千晴	12	木2	Y		
	■	98440	教会音楽指導者育成ワークショップB	礼拝賛美について考える 2	2		宇内 千晴	12	木2	Y		
	■	98450	音楽家のための事業創造論A		2		高島 勲	12	集中	Y		
	■	98460	音楽家のための事業創造論B	音楽産業の今昔を概観しながら将来の事業構想を試みる	2		吉田 雅之	12	木1	Y		
	■	98470	アーティストのための身体論A	表現力のある演奏をするために必要な諸要素を学ぶ	2		三輪 えり花	12	集中	Y		
	■	98480	アーティストのための身体論B	演奏に直結する表現力を身につける	2		三輪 えり花	12	集中	Y		

【備考欄】 ■＝「他専攻への開放科目」

演奏専攻（修士課程）

種別	開放	履修登録コード	科目名	講義題目	単位		担当者	履修年次	曜日 時限	開講 校舎	備考	履修方法
					前	後						
選択 Ⅰ A	■	98490	実技レッスンA	声楽	3		専攻 教員	12	レッスン	R	① ② 実技料別納	「実技レッスンA,B」「特別実技レッスンA,B」を合わせて24単位まで履修可。 修了要件への算入は、演奏専攻は9単位、音楽芸術専攻は6単位まで。
	■	98509		ピアノ	3		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98533		弦楽器	3		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98547		管楽器	3		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98557		オルガン・クラヴィコード・チェンバロ	3		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98568		背景研究・論文作成	3		谷口 昭弘	12	レッスン	R		
	■	98574		作曲	3		たかの 舞俐	12	レッスン	R		
	■	98579		メディア・アート	3		瀬藤 康嗣	12	レッスン	R		
	■	98594	実技レッスンB	声楽	3		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98613		ピアノ	3		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98638		弦楽器	3		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98652		管楽器	3		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98662		オルガン・クラヴィコード・チェンバロ	3		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98672		背景研究・論文作成	3		谷口 昭弘	12	レッスン	R		
	■	98678		作曲	3		たかの 舞俐	12	レッスン	R		
	■	98685		メディア・アート	3		瀬藤 康嗣	12	レッスン	R		
	■	98699	特別実技レッスンA	声楽	1		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98718		ピアノ	1		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98743		弦楽器	1		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98757		管楽器	1		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98767		オルガン・クラヴィコード・チェンバロ	1		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98777		背景研究・論文作成	1		谷口 昭弘	12	レッスン	R		
	■	98783		作曲	1		たかの 舞俐	12	レッスン	R		
	■	98789		メディア・アート	1		瀬藤 康嗣	12	レッスン	R		
	■	98804	特別実技レッスンB	声楽	1		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98823		ピアノ	1		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98848		弦楽器	1		専攻 教員	12	レッスン	R		
	■	98862		管楽器	1		専攻 教員	12	レッスン	R		
■	98872	オルガン・クラヴィコード・チェンバロ		1		専攻 教員	12	レッスン	R			
■	98882	背景研究・論文作成		1		谷口 昭弘	12	レッスン	R			
■	98895	作曲		1		専攻 教員	12	レッスン	R			
■	98894	メディア・アート		1		瀬藤 康嗣	12	レッスン	R			
選択 必修 Ⅲ		98952	修士研究指導		2		蔵田 雅之	12	金6	Y	4単位修得	
		98953			2		蔵田 雅之	12	金6	Y		
		98954			2		落合 敦	12	金6	Y		
		98955			2		落合 敦	12	金6	Y		
		98956			2		戸田 弥生	12	金6	Y		
		98957			2		戸田 弥生	12	金6	Y		
		98958			2		堀 由紀子	12	金6	Y		
		98959			2		堀 由紀子	12	金6	Y		
		98964			2		宮本 とも子	12	金6	Y		
		98965			2		宮本 とも子	12	金6	Y		
		98950			2		黒川 浩	12	金6	Y		
		98951			2		黒川 浩	12	金6	Y		

【備考欄】 ■=「他専攻への開放科目」
 ①=要手続科目 ②=45分個人レッスン ③=15分個人レッスン

学 籍

学籍

学 籍

修業年限及び在学期間

(1) 修業年限

大学院の標準修業年限は、次のとおりです。

研究科	課程	修業年限
人文科学・国際交流研究科	博士前期課程	2年（4学期）
	博士後期課程	3年（6学期）
音楽研究科	修士課程	2年（4学期）

国際交流研究科博士前期課程への入学に際して、長期にわたる履修を願い出て入学を許可された長期履修学生の標準修業年限は次のとおりです。

研究科／種別	課程	修業年限
国際交流研究科の長期履修学生	博士前期課程	4年（8学期）

(2) 在学期間

→大学HP 大学院学則第20条の6

大学院の在学期間は、次のとおりです。この期間を超えて在籍することはできません。

研究科	課程	修業年限
人文科学・国際交流研究科	博士前期課程	4年（8学期）
	博士後期課程	6年（12学期）
音楽研究科	修士課程	4年（8学期）

国際交流研究科博士前期課程の長期履修学生の在学期間は次のとおりです。

研究科／種別	課程	修業年限
国際交流研究科の長期履修学生	博士前期課程	8年（16学期）

→大学HP 大学院学則第20条の6

休 学

病気その他やむを得ない理由により修学できない場合は、次の期日までに所定用紙（「休学願」：教務課備付）をもって休学を願い出ることができます。この場合、あらかじめ指導教授に相談してください。

休学期間

→大学HP 大学院学則第24条・第24条の2

前期もしくは後期の1学期、または1年を区分とします。

休学期間は通算して2年（長期履修学生については4年）を超えることはできません。また、休学期間を修業年限及び在学期間に算入することはできません。

進級・年次の扱い

前期または後期の1学期間のみ休学した学生は、翌年4月に自動的に1学年進級します。
ただし、修了までの修業年限が短縮されることはありません。
1年間継続して休学した後に復学した場合は、年次が原級にとどまります。

在籍料、授業料等学納金の扱い

休学者は、学期ごとに授業料等学納金の半額を、在籍料として納入しなければなりません。
また、施設設備費については、休学中も大学院学則の規定に従って納入しなければなりません。

【「休学願」の提出期限】

→大学HP 大学院学則第31条の3第2項

前期（または前期から1年間）休学する場合	2016年5月31日（火）まで
後期（または後期から1年間）休学する場合	2016年11月30日（水）まで

復学

復学の時期

届け出た休学期間が過ぎると、自動的に復学となります。
ただし、健康上の理由で休学した場合は、復学後の学生生活が支障なく再開可能かの確認を含めて、校医との面談を行います。
さらに続けて休学を希望する場合又は退学を希望する場合は手続きが必要です。
休学期間が終了する前に教務課にお問い合わせください。

退学

事情により退学しようとする場合は、次の期日までに所定用紙（「退学願」：教務課備付）をもって願い出なければなりません。この場合、あらかじめ指導教授に相談してください。また、退学する日を含む学期の授業料等学納金を納入していなければ、退学は認められません。

→大学HP 大学院学則第27条

なお、博士後期課程の標準修業年限に達して退学する場合も、所定の「退学願」をもって願い出なければなりません。

【「退学願」の提出期限】

前期末に退学する場合	2016年9月30日（金）まで
後期末に退学する場合	2017年3月31日（金）まで

除籍

学生が次のいずれかに該当する場合には、除籍されることがあります。

→大学HP 大学院学則第27条の2

- (1) 在学期間を超えて修了資格を得られない場合
- (2) 授業料等学納金の納入を怠った場合
- (3) 通算2年の休学期間を超えて、なお復学できない場合
- (4) 死亡した場合
- (5) 長期間にわたり行方不明の場合

なお、除籍日以降の履修・成績等はすべて無効となります。

留 学

研究科委員会の許可を得て外国の大学院に留学する場合、1年を限度として、その留学期間を、修業年限及び在学期間に算入することができます。また、博士後期課程の学生に限り、研究科委員会の許可を得て、留学期間を更に1年を限度として延長することができます。ただし、本大学院の規定の適用を受けず、休学して留学した場合はこの限りではありません。

→大学HP 大学院学則第23条

再入学

本大学院を退学した者または除籍を受けた者が再入学を願い出た場合は、審査の上、これを許可することがあります。

→大学HP 大学院学則第28条

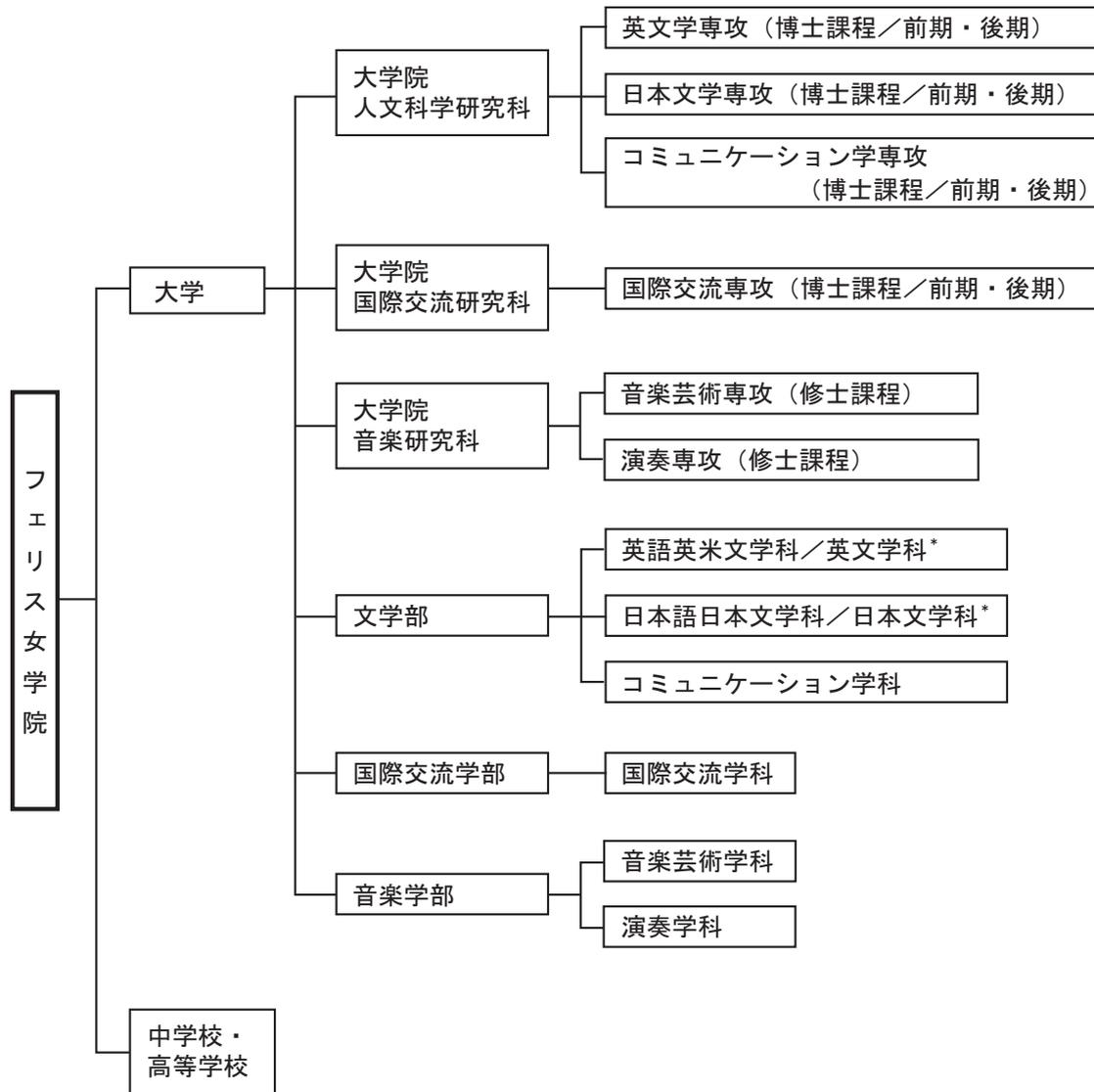
→大学HP 大学院再入学に関する内規

資料編

資料編

資料編

組織



*2014年度から、学科名称を次のとおり変更しました。
 新学科名称が適用されるのは2014年度以降入学者です。
 2013年度以前入学者は、卒業するまで旧学科名称を用いることとしています。

英文学科 → 英語英米文学科
 日本文学科 → 日本語日本文学科

フェリス女学院大学の沿革

本学の源流は、1870（明治3）年に米国改革教会の宣教師、メアリー・E・キダーが始めた私塾にさかのぼります。これは、ローマ字や医療事業等で知られる長老教会宣教師ヘボン博士のクララ夫人が、1863（文久3）年に開いた家塾を引き継いだもので、キダーは1871年にこれを女子だけの学校としました。そして、1875年、山手の外国人居留地に校舎を建て、校名をフェリス・セミナリーとして寄宿学校を開校するに至りました。「フェリス」の名は、キダーを派遣し、その教育を支えた改革教会伝道局主事フェリス博士父子を記念するものです。

本学は、敬虔な人格と優れた教養によって、創造的に人類社会に貢献する女性の育成を求め続けて、今日に至っています。

- 1870（明治 3）年 メアリー・E・キダー、ヘボン施療所で授業開始。〈フェリス女学院の発祥〉
- 1875（ 8）年 山手178番に校舎落成。この頃「フェリス・セミナリー」と名づける。
- 1887（ 20）年 高等科設置。校舎拡張。
- 1889（ 22）年 校名を「フェリス和英女学校」とする。講堂「ヴァン・スカイック・ホール」完成。
- 1899（ 32）年 私立学校令により認可。特別科（高等科に替えて）設置。
- 1903（ 36）年 特別科を文学科・聖書研究科の2科（18～21歳）とする。英語師範科（16～19歳）設置。
- 1908（ 41）年 特別科を高等科（英文学部・神学部）に改める。
- 1919（大正 8）年 東京女子大学創立に協力し高等科廃止。
- 1923（ 12）年 関東大震災により校舎倒壊焼失。カイパー校長殉職。
- 1927（昭和 2）年 「専門学校入学者検定規定」による指定認可。
- 1929（ 4）年 新校舎・カイパー記念講堂竣工。
- 1930（ 5）年 高等部（英文科・家政科、17～19歳）設置。
- 1939（ 14）年 戦時下、米国伝道局経営の社団法人から日本の財団法人となる。
- 1941（ 16）年 校名を「横浜山手女学院」に変更。
- 1947（ 22）年 専門学校（旧制）3年（英文科・家政科・音楽科）設置。
- 1950（ 25）年 校名を「フェリス女学院」と改称。新学制により専門学校から短期大学（英文科・家政科・翌年に音楽科）開設。
- 1965（ 40）年 大学開学。短期大学（英文科）を発展改組し、大学文学部（英文学科・国文学科）開設。
- 1970（ 45）年 学院創立100周年。
- 1988（ 63）年 短期大学（家政科）を発展改組し、文学部に国際文化学科開設。大学緑園キャンパス開設。
- 1989（平成 1）年 短期大学（音楽科）を発展改組し、大学音楽学部（声楽学科・器楽学科・楽理学科）開設。フェリスホール竣工。
- 1991（ 3）年 大学院人文科学研究科修士課程（英文学専攻・日本文学専攻）開設。
- 1992（ 4）年 大学院人文科学研究科修士課程地域文化専攻開設。
- 1993（ 5）年 文学部国文学科を日本文学科に名称変更。
- 1995（ 7）年 大学院人文科学研究科を博士課程前期・後期に改組。
大学院人文科学研究科博士後期課程（英文学専攻・日本文学専攻）開設。
- 1997（ 9）年 文学部国際文化学科を発展改組し、国際交流学部（国際交流学科）開設。

- 1998 (平成10) 年 大学院音楽研究科修士課程 (声楽専攻・器楽専攻・創作表現専攻) 開設。
国際学生交流会館開設 (～2008年3月)
- 2001 (13) 年 大学院国際交流研究科博士前期課程・博士後期課程 (国際交流専攻) 開設。
緑園キャンパス施設拡充 (文学部棟、キダーホール・緑園、図書館竣工)。
- 2002 (14) 年 中高新校舎・新カイパー記念講堂竣工。
- 2004 (16) 年 文学部コミュニケーション学科開設。
音楽学部楽理学科を音楽芸術学科に、大学院音楽研究科創作表現専攻を音楽芸術専攻に
名称変更。
- 2005 (17) 年 音楽学部演奏学科 (声楽学科・器楽学科の改組) 開設。
- 2008 (20) 年 大学院人文科学研究科 (コミュニケーション学専攻) 博士前期課程開設。
- 2009 (21) 年 大学院音楽研究科修士課程演奏専攻 (声楽専攻・器楽専攻の改組) 開設。
- 2010 (22) 年 学院創立140周年。大学院人文科学研究科 (コミュニケーション学専攻) 博士後期課程開設。
- 2014 (26) 年 文学部英文学科を英語英米文学科に、文学部日本文学科を日本語日本文学科に名称変更。
- 2015 (27) 年 大学開学50周年。

専任教員一覧〔大学院〕

学長

教授	秋岡陽
----	-----

副学長

教授	荒井真
教授	谷知子

人文科学研究科

英文学専攻 博士前期課程

教授	梅崎透
教授	大畑甲太
教授	近藤存志
教授	中川正紀
教授	富樫剛
教授	福永保代
教授	藤本朝巳
教授	向井秀忠
教授	由井哲哉
教授	饒平名尚子
教授	渡辺信二
客員教授	マーク バイロン BYRON, Mark S.

英文学専攻 博士後期課程

教授	梅崎透
教授	大畑甲太
教授	近藤存志
教授	富樫剛
教授	藤本朝巳
教授	向井秀忠
教授	由井哲哉
教授	渡辺信二

日本文学専攻 博士前期課程

教授	勝田耕起
教授	佐藤裕子
教授	島村輝
教授	竹内正彦 (2016年度特別研修)
教授	谷知子
教授	松田浩
教授	吉田弥生
准教授	田中里奈

日本文学専攻 博士後期課程

教授	勝田耕起
教授	佐藤裕子
教授	島村輝
教授	竹内正彦 (2016年度特別研修)
教授	谷知子
教授	松田浩
教授	吉田弥生

コミュニケーション学専攻 博士前期課程

教授	井上恵美子
教授	小ヶ谷千穂
教授	齋藤孝滋
教授	潮村公弘
教授	高田明典
教授	諸橋泰樹
教授	渡辺浪二
准教授	相澤一
准教授	高橋京子

コミュニケーション学専攻 博士後期課程

教授	井上恵美子
教授	小ヶ谷千穂
教授	齋藤孝滋
教授	潮村公弘
教授	高田明典
教授	諸橋泰樹
教授	渡辺浪二

国際交流研究科

国際交流専攻 博士前期課程

教授	荒井 真
教授	上原 良子 (2016年度特別研修)
教授	大西 比呂志
教授	大野 英二郎
教授	笥 雅博
教授	木曾 順子
教授	金 ^{キム} 香 ^{ヒョン} 男 ^{ナム}
教授	佐藤 輝
教授	高柳 彰夫
教授	田丸 理砂
教授	常岡(乗本) せつ子
教授	寺尾 隆吉
教授	中塚 次郎
教授	原口 尚彰
教授	春木 良且
教授	ヒガ, マルセーロ HIGA, Marcelo G.
教授	ベンヤミン ミドルトン Benjamin MIDDLETON
教授	矢野 久美子
教授	横山 正樹
教授	和田 浩一
准教授	齊藤 直
准教授	高雄 綾子
准教授	福島 仁
准教授	古内 洋平

国際交流専攻 博士後期課程

教授	荒井 真
教授	上原 良子 (2016年度特別研修)
教授	大西 比呂志
教授	大野 英二郎
教授	笥 雅博
教授	木曾 順子
教授	金 ^{キム} 香 ^{ヒョン} 男 ^{ナム}
教授	佐藤 輝
教授	高柳 彰夫
教授	田丸 理砂
教授	常岡(乗本) せつ子
教授	寺尾 隆吉
教授	中塚 次郎
教授	原口 尚彰
教授	春木 良且
教授	ヒガ, マルセーロ HIGA, Marcelo G.
教授	矢野 久美子
教授	横山 正樹
教授	和田 浩一
准教授	福島 仁

音楽研究科

音楽芸術専攻 修士課程

教授	立神 粧子
教授	星野 聡 (2016年度特別研修)
准教授	川本 聡胤
准教授	瀬藤 康嗣
准教授	たかの 舞俐
准教授	谷口 昭弘

演奏専攻 修士課程

教授	落合 敦
教授	蔵田 雅之
教授	黒川 浩
教授	土屋 広次郎
教授	戸田 弥生
教授	堀 由紀子
教授	宮本 とも子
講師	井出 朋子
客員教授	ウェルナー ベルチ BÄRTSCHI, Werner

役職者

学院長	鈴木 佳秀
-----	-------

学長	秋岡 陽
副学長	荒井 真
副学長	谷 知子
附属図書館長	藤本 朝巳
大学院委員・大学評議員	富樫 剛
大学院委員・大学評議員	諸橋 泰樹
大学院委員・大学評議員	中塚 次郎
大学院委員・大学評議員	田丸 理砂
大学院委員・大学評議員	堀 由紀子
大学院委員・大学評議員	蔵田 雅之
情報センター長	春木 良且
山手総括主事	立神 粧子
宗教主任	相澤 一
教職課程主任	渡辺 浪二
教務部長	近藤 存志
学生部長	木曾 順子
海外交流部長	寺尾 隆吉
入試部長	向井 秀忠
留学生センター長	寺尾 隆吉
言語センター長	近藤 存志
宗教センター長	相澤 一
ボランティアセンター長	高柳 彰夫

人文科学研究科

研究科長	井上恵美子
英文学専攻主任	中川 正紀
日本文学専攻主任	勝田 耕起
コミュニケーション学専攻主任	潮村 公弘
教務責任者	富樫 剛
入試責任者	佐藤 裕子

国際交流研究科

研究科長	大西比呂志
国際交流専攻主任	和田 浩一
教務責任者	田丸 理砂
入試責任者	佐藤 輝

音楽研究科

研究科長	立神 粧子
音楽芸術専攻主任事務取扱	谷口 昭弘
演奏専攻主任	堀 由紀子
教務責任者	落合 敦
入試責任者	黒川 浩

文学部

学部長	井上恵美子
英語英米文学科/英文学科主任	中川 正紀
日本語日本文学科/日本文学科主任	勝田 耕起
コミュニケーション学科主任	潮村 公弘
教務主任	富樫 剛
入試主任	佐藤 裕子

国際交流学部

学部長	大西比呂志
国際交流学科主任	和田 浩一
教務主任	田丸 理砂
入試主任	佐藤 輝

音楽学部

学部長	立神 粧子
音楽芸術学科主任事務取扱	谷口 昭弘
演奏学科主任	堀 由紀子
教務主任	落合 敦
入試主任	黒川 浩

教務主任・教務委員、教務責任者、科目責任者・語学責任者

履修計画を立てるにあたり、下記の教員が相談に応じます。

【教務主任・教務委員】：各学部・学科の専門科目に関すること、所属学部・学科学生の履修計画全般に関すること。

文 学 部	富樫 剛 教務主任 梅崎 透 (英語英米文学科/英文学科) 松田 浩 (日本語日本文学科/日本文学科) 高田 明典 (コミュニケーション学科)
国 際 交 流 学 部	田丸 理砂 教務主任
音 楽 学 部	落合 敦 教務主任 谷口 昭弘 (音楽芸術学科) 土屋広次郎、堀 由紀子 (演奏学科)

【教務責任者】

人 文 学 科 研 究 科	富樫 剛
国 際 交 流 研 究 科	田丸 理砂
音 楽 研 究 科	落合 敦

【科目責任者・語学責任者】：次の各科目に関すること。

基礎教養・総合課題科目	笥 雅博 (全般) 原口 尚彰 (キリスト教) 春木 良且 (情報リテラシー) 高橋 京子 (健康・スポーツ)
教 職 課 程	渡辺 浪二
日 本 語 教 員 養 成 講 座	田中 里奈
留学生日本語・日本事情科目	椎名 渉子、筒井 千絵

英 語	饒平名 尚子
フ ラ ン ス 語	大野 英二郎
ド イ ツ 語	高雄 綾子
ス ペ イ ン 語	ヒガ, マルセーロ
中 国 語	泉谷 陽子
朝 鮮 語	金 香男

古 典 ギ リ シ ア 語	
ラ テ ン 語	大野 英二郎
イ タ リ ア 語	
日 本 語 (日本語 I, II)	田中 里奈

2016年度の主な制度変更〔大学院関連〕

授業科目の改廃

2016年度に新設・廃止する授業科目はありません。

2016年度 フェリス女学院大学大学院要覧

2016年4月1日 発行

発行 フェリス女学院大学
緑園校舎 〒245-8650 横浜市泉区緑園4-5-3
TEL 0 4 5 - 8 1 2 - 8 2 1 1(代表)
山手校舎 〒231-8651 横浜市中区山手町37
TEL 0 4 5 - 6 8 1 - 5 1 5 0(代表)

印刷 株式会社 野毛印刷社

フェリス女学院大学公式webサイト <http://www.ferris.ac.jp/>